

第 197 回

山形県社会教育委員の会議

◇ 期 日： 令和 6 年 5 月 29 日(水)

◇ 時 間： 13：30 ～15：30

◇ 場 所： オンライン開催

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 出席者紹介

4 座長選出

5 議 事

(1) 令和5年度の社会教育事業の実施状況について

【資料1】

(2) 令和6年度の社会教育事業計画について

【資料2】

(3) その他

6 その他

7 閉 会

山形県社会教育委員

任期: 令和4年7月16日～令和6年7月15日

No.	氏名	役職	備考
1	あんどう こうき 安藤 耕己	山形大学地域教育文化学部地域教育文化学科教授	
2	いしざわ えり 石沢 恵理	東北芸術工科大学講師	
3	えんどう みきこ 遠藤美喜子	NPO法人きらりよしじまネットワーク職員 川西町吉島地区地域学校協働活動推進員	
4	おおむら みちお 大村 亨夫	白鷹町社会教育委員長 東北芸術工科大学非常勤講師	
5	こはら やすこ 古原 靖子	山形市立東小学校長	令和6年 5月17日から
6	さとう なるみ 佐藤 成美	県家庭教育アドバイザー 家庭教育応援ボランティア活動団体アベルんち代表	
7	すがわら ともこ 菅原 知子	三川町教育委員会 生涯学習推進員 県地域青少年ボランティア推進委員	
8	すずき まさし 鈴木 雅史	山形新聞社 論説委員長・局長	
9	たけだ やすひろ 武田 靖裕	山形県PTA連合会会長 武田紙工株式会社常務取締役	
10	にいぜき さとみ 新関さとみ	さとみの漬物講座企業組合理事長	
11	ふじかわ かな 藤川かな奈	合同会社「Oriori Japan」代表	
12	ほそや なおき 細谷 直樹	山形市立第一中学校長	令和6年 5月17日から
13	やぐち のぶ 矢口しのぶ	真室川町教育委員会 社会教育指導員 読み聞かせサークル「バムケロ」代表	
14	わたなべ あきら 渡邊 晃	県立山形東高等学校長	令和6年 5月17日から

県社会教育委員の会議 県教育委員会等事務局

所 属 ・ 役 職		氏 名
教育次長		加藤 淳一
生涯教育・学習振興課	課長（兼）郷土愛育成室長	東海林 靖志
〃	課長補佐（兼）郷土愛育成室長補佐 （生涯学習・社会教育担当）	村上 康広
〃	社会教育専門員	木村 征子
〃	社会教育主査 （兼）郷土愛育成主査	川田 大
〃	社会教育主査	佐藤 陽介
〃	社会教育主査 （兼）郷土愛育成主査	小野 大輔
〃	生涯学習主査	秋葉 正任
〃	青少年教育施設主査	大澤 敦子
〃	青少年教育主査	矢口 暁子
〃	図書館活性化主査 （兼）郷土愛育成主査	小山田 寛子
〃	主 事	石黒 海

県生涯学習センター	学習振興部長	阿部 稔
-----------	--------	------

義務教育課	課 長	高橋 典子
村山教育事務所	社会教育課長	原田 正明
最上教育事務所	社会教育課長	栗田 忠男
置賜教育事務所	社会教育課長	佐藤 健
庄内教育事務所	社会教育課長	高橋 千尋

(1) 令和5年度社会教育事業の実施状況について

資料1

1 豊かな心と健やかな体を育成する

(1) 教育の原点である家庭教育、幼児教育の推進

事業名: 家庭教育支援の推進及び幼児共育の推進	
令和5年度事業の実施状況	成果(○)と課題(▲)
<p>1 家庭教育支援の推進</p> <p>(1) 県家庭教育支援推進協議会の開催: 年1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員委嘱: 11名(関係課2) ・ 県家庭教育アドバイザーの委嘱: 26名(村山13 最上4 置賜5 庄内4) ・ 地域における家庭教育支援の充実 <p>(2) 学習機会・情報の提供</p> <p>① やまがた子育て生活習慣改善事業【国補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「やまがた子育て5か条」リーフレット(保護者用学習資料)を活用した、子どもの生活習慣に関する指針の普及(20,000部印刷) ・ 「県家庭教育アドバイザー委嘱状交付式兼家庭教育支援研修会」の実施(4月18日対面・オンライン併用) ・ リーフレットを活用した講座や研修会の実施回数 の取りまとめ(実績報告に合わせて提出) ・ 県Xや雑誌等を通して周知(5月、2月) ・ 県内ローソン107店舗に各20部設置(4~5月) ・ 庄内、置賜イオン3店舗に各20部設置(12月) ・ Google検索「子ども 生活」で検索ランキング5位(R6.5月現在) ・ 子育て雑誌(mamaid)1月発行の2月号に掲載 <p>② やまがた子育て講座【国補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村間接補助: 28市町村 112講座実施 (3月末現在) 	<p>1 家庭教育支援の推進</p> <p>(1) 県家庭教育支援推進協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域における家庭教育支援の充実」をテーマに、その実現に向けて協議し、様々な有意義な意見をいただくことができた。 ○ 家庭教育についての話を子どもも一緒に聞くことで効果が高まる等、今後の取組みの参考となる意見が出された。 ▲ 協議会での意見を受け、幼児向けの性教育の講座について今後情報収集を行う。 <p>(2) 学習機会・情報の提供</p> <p>① やまがた子育て生活習慣改善事業【国補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度初めに各学校や園等に活用資料を送付した際、リーフレット申込 FAX 用紙を同封したところ、反響が大きかった。 ○ 年度当初にリーフレットの周知活用について共通理解する場を設けたところ、昨年度より配布数が増加した。 ▲ 学校におけるリーフレットの周知がまだ十分でない実態も見受けられる。SNSや広報誌等様々な媒体を利用して積極的な周知を継続する。 <p>② やまがた子育て講座【国補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度に比べ、各団体からの家庭教育に関する研修会の講師依頼が増え、実施につなげることができた。 ▲ 本申請数の半数ほどしか実施していない市町村もある。計画的な実施ができるよう、学校とも連絡・調整を図りながら市町村の担当者働きかける。

③家庭教育出前講座(7か所)【国補助】

(村山 2 最上 2 置賜 2 庄内 1)

○村山:7月6日(木) 黒田組(河北町)
2月2日(金)

子どもの居場所づくりを考える会(上山市)

○最上:6月28日(水)

東山ふれあいサロン(新庄市)

11月11日(土)

地域の子ども会活動を考える会(新庄市)

○置賜:12月6日(水)

南陽ロータリークラブ(南陽市)

1月17日(水)

南陽ロータリークラブ(南陽市)

○庄内:12月14日(木)

庄内町民生委員・児童委員協議会(庄内町)

④「家庭の教育エッセイ」による情報提供

県ホームページに、家庭教育に関するエッセイを
家庭教育アドバイザーが執筆。11月に2名(高
橋まゆみ氏、伊藤洋子氏)、12月に1名(二瓶明
美氏)、3月に3名(大沼千絵氏、笹原英子氏、片
桐晃子氏)のエッセイを更新。

(3)相談機会の提供

①家庭教育電話相談「ふれあいほっとライン」

・相談件数:257件(3月末)

※昨年度末 253件

・広報カード:新小中1年生と乳幼児健診分

・市町村広報紙掲載依頼:6月・8月

・県 X、雑誌による周知:5月・9月・1月

・子育て雑誌(mamaid)9月発行10月号に掲載

(4)研修機会の提供

①家庭教育支援フォーラム(4地区)【国補助】

○村山:①5/10②10/18 ○最上:①6/3②9/7

○置賜:①9/28②11/2 ○庄内:①6/9②8/31

※ 家庭教育支援団体、読み聞かせサークルなど家
庭教育支援にかかわる団体の参加促進を継続。よ
り効果的なネットワークづくりのため、情報交換・交
流の時間の設定を大切にしたい。

※ より多くの関係者が参加しやすい環境を整備す
る観点から、オンラインの併用を工夫したい。

③家庭教育出前講座

○実施した講座の参加者からは、大変好評だ
った。少人数で、ニーズに合った講演を聞いて
いただくことができた。

▲企業の働き方改革やコロナ禍の影響で、出
前講座のニーズが少ない。

④「家庭の教育エッセイ」による情報提供

○県家庭教育アドバイザーに、発達段階別に
エッセイを寄稿いただき、発信することができ
た。

1回の更新につき発達段階別に3つの記事
を追加掲載する。

(3)相談機会の提供

①家庭教育電話相談「ふれあいほっとライン」

○昨年度に比べ相談件数は減少している。内
容は不登校傾向の相談が多い。

○年度初めに配布している「ほっとラインカー
ド」を見て電話をかけている保護者がおり、
配布には一定の効果が見られる。

(4)研修機会の提供

①家庭教育支援フォーラム(4地区)【国補助】

○PTA役員に限らず全ての保護者に案内を
配布したことで、役員等以外の保護者の参
加が見られ、多くの保護者に学習機会を提
供することにつながった。

○事業のねらいを捉え、対象者のニーズに合
わせた内容で実施することができた。

②「やまがた教育の日」記念講演

- 11月12日(日)
- 対面・オンライン併用型で開催
- 講師:前野 マドカ 氏(EVOL 株式会社代表取締役 CEO、一般社団法人ウェルビーイングデザイン理事、慶應義塾大学大学院 SDM 研究科付属 SDM 研究所研究員)
- 演題:親子のためのウェルビーイング講座
～親も子ども幸せに生きるために～
- 参加者(含オンライン):69名

2 幼児共育の推進

(1)幼児共育ふれあい広場【国補助】

- ・市町村補助:30市町村 136箇所実施 (3月末)
- ※ 実施数は大幅増。(43増)
- ※ 関係者向けに事業の概要を伝えるリーフレットを作成。

②「やまがた教育の日」記念講演

- オンラインを活用したことで、遠方の講師を選定できたこと、参加者の幅が広がったことなどのメリットが見られた。

2 幼児共育の推進

(1)幼児共育ふれあい広場【国補助】

- 昨年度に比べ、各団体からの家庭教育に関する研修会の講師依頼が増え、実施につなげることができた。
- ▲本申請数の半数ほどしか実施していない市町村もある。計画的な実施ができるよう、学校とも連絡・調整を図りながら市町村の担当者に働きかける。

(2)豊かな心の育成

事業名：読育推進ネットワーク整備事業	
令和5年度事業の実施状況	成果(○)と課題(▲)
<p>1 読育推進ネットワーク整備事業</p> <p>(1)読育推進ネットワーク研修会(4地区)</p> <p>○村山:①7月20日(木) ②1月23日(木)</p> <p>○最上:11月9日(木)</p> <p>○置賜:11月2日(木)</p> <p>○庄内:10月6日(金)</p> <p>(2)読育推進連携講座(4地区)【国補助】</p> <p>○村山:①11月26日(日) ②12月17日(日)</p> <p>○最上:9月24日(日)</p> <p>○置賜:8月27日(日)</p> <p>○庄内:7月1日(土)</p> <p>(3)山形県第3次子ども読書活動推進計画の推進 各市町村の策定状況(R6年1月現在)</p> <ul style="list-style-type: none">・策定済み市町村 31 市町村・策定作業進行中 2 市町村・策定するか検討中 1 市町村・策定の予定なし 1 市町村 <p>※策定率:88.6%(R4年度末)</p> <p>※全国平均:87.0%(R4年度末)</p> <p>(4)山形県第4次子ども読書活動推進計画の策定</p> <p>○第1回策定委員会 7月:基本方針(案)提案</p> <p>○第2回策定委員会 10月:骨子(案)提案</p> <p>○令和6年3月策定</p>	<p>(1)読育推進ネットワーク研修会</p> <p>○情報交換の場や参加者同士が交流したり連絡先を交換したりする場の工夫を継続し、ネットワークの充実が図られた。</p> <p>▲図書館(室)や関係団体の活動状況、子どもの読書活動に関する最新情報の共有等、ネットワークの機能充実を図りたい。</p> <p>(2)読育推進連携講座</p> <p>○企業や社会教育施設等と連携し、体験を伴う魅力的な講座を実施できた。</p> <p>▲人気が高く、すぐに定員に達して締め切らざるを得ない地区が多いことから、より多くの参加者を受け入れられるようにする工夫が必要。</p> <p>(3)県第3次子ども読書活動推進計画の推進</p> <p>○多くの自治体において、ブックスタート関連事業をはじめ、親子読書や読み聞かせの取組み等子どもの読書活動推進に力を入れている。</p> <p>▲各自治体における子どもの読書活動推進計画の策定や改定に資する最新情報の提供や助言等ができるよう、継続的な情報収集に努める。</p> <p>(4)県第4次子ども読書活動推進計画策定</p> <p>○2回の策定委員会を通して、有識者から参考となる意見を聴取し、策定に生かすことができた。</p> <p>○策定までのスケジュールを都度修正しながら取り組んだことで、年度内に予定通り策定することができた。</p> <p>▲第4次推進計画の理解促進のため、市町村に積極的に説明していく。</p>

2 変化に対応し、社会で自立できる力を育成する

(1) グローバル化等に対応する実践的な力の育成

事業名: 不登校児童生徒教育機会確保等検討事業	
令和5年度事業の実施状況	成果(○)と課題(▲)
<p>1 不登校児童生徒の自立支援ネットワーク推進会議 ○11月20日(月) ハイブリッド開催 ・令和5年度以降の事業計画について(報告) ・不登校生徒の自立支援に係る地区ネットワーク会議について(報告) ・社会的自立をめざした不登校児童生徒とその保護者の支援について(協議)</p> <p>2 不登校児童生徒の自立支援ネットワーク研修会 ○10月10日(火) ハイブリッド開催 ・対象; 教員、民間支援団体、教育支援センター関係者、SC, SSW、教育・福祉・子育て支援行政関係者等 ・内容; 「連携・協働する不登校支援～将来の社会的な自立に向けて～」 ・参加者: 131名(オンライン含む) ※シンポジウム形式 コーディネーター兼コメンテーター 佐藤宏平氏 事例提供 安達えり氏、樋口愛子氏、廣谷久美子氏</p> <p>3 地区ネットワーク会議(各2回)《各教育事務所指導課》 村山; 5月22日(月)、1月30日(火) 最上; 5月18日(木)、2月7日(水) 置賜; 6月6日(火)、2月15日(木) 庄内; 6月14日(水)、2月19日(月)</p> <p>4 民間支援団体の情報をホームページにて周知 ・募集期間: 7月4日(火)～7月20日(木)及び随時 ・HP掲載: 8月16日(水) ※3月31日現在 居場所19団体、親の会18団体(重複有)</p> <p>5 『不登校児童生徒の支援ハンドブック』改訂 ・年度内に改訂の方向性や令和6年度の作業スケジュール、執筆の分担などを検討</p> <p>6 その他 ・「子ども・若者支援協議会」(多様性・女性若者活躍課) 村山: 10月25日(水) 最上: 9月15日(金) 置賜: 8月29日(火) 庄内: 8月21日(月) 県: 11月16日(木) ・「困難を有する若者などに関するアンケート」打合せ 7月10日(多様性・女性若者活躍課) ・「ひきこもり支援タスクフォース会議」(関係課) 6月6日(火)、11月10日(木)、2月13日(火)</p>	<p>1 不登校児童生徒の自立支援ネットワーク推進会議 ○ 不登校児童生徒のいる家庭、保護者に対する支援の重要性を確認できた。特に親の会の必要性や、保護者が自己決定することの大切さを確認できた。 ○ 不登校要因の多様化に伴い、多様な支援が必要になってきている中で、ネットワークの重要性を改めて確認できた。 ▲ 子どもの特性やニーズに応じた支援の場所の提供や学びの形態が今後必要。</p> <p>2 不登校児童生徒の自立支援ネットワーク研修会 ○ 民間支援団体に加え、親の会、教育支援センターと様々な支援機関の取組を紹介できた。参加者にも支援の在り方が多様にあるので、児童生徒の実態やニーズ、保護者の困りごとに応じて支援できる場所があることを伝えることができた。 ▲ 学校以外の居場所、学びの場として教育支援センターの取組みの紹介</p> <p>3 地区ネットワーク会議 ○ 令和5年度から、県内4地区で会議を実施した。顔を合わせて取組を紹介し合う機会を設定したことで、民間支援団体の取組みや市町村の不登校の状況を知ることができ、地区ごとのネットワークを構築できた。 ▲ 不登校要因の多様化に伴い、学校での支援に加え、福祉部局や地域の支援、高校との連携、就労支援等多様な連携・支援が必要になることから、地域の実情に応じて、会議のメンバーや内容の拡充が必要。</p> <p>4 その他の取組み ○ 不登校児童生徒等を支援している教育支援センターと民間支援団体の情報をホームページに掲載し、支援先を探している保護者や教員を始め、県民に情報提供を行った。 ▲ 実際に不登校の支援が必要になってから保護者が情報を得るのではなく、あらかじめ支援先を知っておき、早期対応につなげる必要がある。</p>

3 郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる心を育成する

(1)郷土愛を育み、地域と協働する教育の推進

事業名:視聴覚教育推進事業	
令和5年度事業の実施状況	成果(○)と課題(▲)
<p>1 自作視聴覚教材コンクール (1)第72回山形県自作視聴覚教材コンクール ・実施要項発送 5/29(月) ・審査会(非公表) 1/19(金) 遊学館 学校教育部門…6 作品 社会教育部門…21 作品 児童生徒作品部門…8 作品 計 35作品(R4 年度比:6作品減) ・発表会・表彰式 2/11(日)→2/10(土) 遊学館 ※教育分野の学部を持つ大学・短大にも周知依頼を行った。 ※探究部のある高校にも新たに個別に周知を図った。 ※表彰式前に、過去の受賞作品のうち県立図書館所蔵の作品を展示。</p> <p>(2)令和5年度全国自作視聴覚教材コンクール ※令和4年度の県コンクール入賞 21作品を推薦。 4作品が入選(最優秀賞:1作品 優秀賞:1作品)</p> <p>2 視聴覚教材の普及 郷土に根ざした作品の複製を通して地域文化の再認識、継承、啓発に努める。 ・「ふるさと塾アーカイブス」「やまがた発見ナビ」を県教育センターの初任者・中堅教員研修で周知。 ・令和5年度全国自作視聴覚優秀作品の「ふるさと塾アーカイブス」への掲載 ※HP未掲載の作品で、全国で表彰され、許諾の得られた4作品をHPに掲載。</p> <p>3 視聴覚教育功労者表彰 ・文部科学大臣表彰:後藤 弘実 氏(遊佐町) ・全国視聴覚教育連盟表彰:推薦なし</p>	<p>1 自作視聴覚教材コンクール (1)山形県自作視聴覚教材コンクール ○児童生徒作品部門において、学習の成果をまとめた作品の応募が増えてきた。今後も継続して周知していく。 ▲部門によって紙芝居や映像・デジタルコンテンツなどの種類や量のばらつきがある。審査員の負担を均一化しながらも、公平公正な審査を行えるようにすることが課題。</p> <p>(2)全国自作視聴覚教材コンクール ○前年度の県コンクール入賞作品について、山形県教育委員会の推薦として各教育事務所から多くの作品を出品することができた。 ▲より多くの作品を出品するために、全県に広く周知する必要がある。</p> <p>2 視聴覚教材の普及 ○「ふるさと塾アーカイブス」掲載 85コンテンツ(自作視聴覚教材のみ) アクセス回数 103,459 回(3月末) (R4:94,650 回) (ページ閲覧+YouTube) ○「やまがた発見ナビ」 ページ閲覧回数 R4年度:39,854回 R5年度:56,206回 ▲県自作視聴覚教材コンクールでの優秀作品の利活用推進</p> <p>3 視聴覚教育功労者表彰 ○文部科学大臣表彰について、毎年然るべき方を推薦することができている。 ▲全国視聴覚教育連盟表彰について、視聴覚教育の推進を図りながら、継続的に取り組んでいる方の発掘を行う必要がある。</p>

3 郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる心を育成する

(1)郷土愛を育み、地域と協働する教育の推進

令和5年度事業の実施状況	成果(○)と課題(▲)
<p>事業名：地域を知る情報ポータルサイト管理・運営事業、郷土の魅力発見・体験プログラム普及事業 (令和4年ポータルサイト開設、令和5年発見・体験プログラム開始)</p> <p>1 地域を知る情報ポータルサイト管理・運営事業 ・対象 主に小中学生 ・活動 一人一台端末において、郷土に関する資料を検索しやすい環境を整備することで、児童・生徒が探究型学習等に取り組みやすい環境を整備する。</p> <p>2 郷土の魅力発見・体験プログラム (1)村山教育事務所 【事業名】「秋の木の実でクラフトづくり」 【期 日】 令和5年10月28日(土) 【場 所】 出羽コミュニティセンター 【内 容】 山形市教委が主催する放課後子ども教室「ベニっこアフタースクール」のプログラムの1つを、中学生が主になって企画、運営する形で「地元の自然の材料を使ったクラフト教室」を実施した。4回の企画会議を経て、事前準備段階で、中学生が自ら試作品を製作し見本として提示したり、参加した低学年の小学生が作業しやすいように道具や材料のセッティングをしたりした。参加者達は多種多様な材料を使いながら作品作りに取り組むことができた。 【その他】 <u>本番までの準備日程</u> ①5/9(火) ②5/31(水) ③6/24(土) ④8/4(金) ⑤9/30(土) ⑥10/14(土) <u>普及啓発活動</u>…2/7(月)</p> <p>(2)最上教育事務所 【事業名】「舟形町MY箸づくり体験講座」 【期 日】 令和5年12月16日(土) 【場 所】 舟形町中央公民館 【内 容】 舟形町のシンボルとして「エンジュ」という種の木がある。その木を使って、オリジナルの箸を作る活動を行った。中学生が舟形町に関するクイズを出したり、公民館を使ったレクリエーションを企画したりして、参加した小学生を楽しませることができた。箸づくりを通して、郷土の魅力を体験する契機となった。 【その他】 <u>本番までの準備日程</u> ①9/25(月) ②11/14(火) ③ 11/29(水) ④12/4(月)</p>	<p>1 地域を知る情報ポータルサイト管理・運営事業 ○令和5年度新規追加コンテンツ数65 (掲載コンテンツ数累計406)(3月末現在) ○令和5年度ページ閲覧数56,206回 ▲更なる利用拡大の推進 ▲学校現場における活用状況調査等の実施方法の検討</p> <p>2 郷土の魅力発見・体験プログラム (1)事業実施について ○参加した小学生、中学生ともに地域のよさを体感し、地域について考えることができた。 ○市町村担当者に対し、事業の成果を直接説明する機会をつくり普及に取り組んでいるところ ▲中学生のスケジュール調整が難しい。 ①参加人数等集約 参画中学生…19名 参加小学生…58名 運営協力者…10名 行政職員等…13名 ②4地区のアンケート結果まとめ [小学生] ○「活動を通して、初めて知ったことや発見などあったか」に対し「あった」「まあまああった」を合わせると84% ○「地元のいいところを見つけることはできたか」に対し、「できた」「少しできた」を合わせると87% ○「来年も参加したいか」に対し、「参加したい」「どちらかというに参加したい」を合わせると100% ○「中学生になった時、事業を企画する側になってみたいか」に対し「やってみたい」「どちらかというやってみたい」を合わせると94% ○「この事業に参加してよかったか」に対し、「よかった」「どちらかというよかった」を合わせると100% [中学生] ○「活動を通して、初めて知ったことや発見などあったか」に対し「あった」「まあまああった」を合わせると94% ○「地元のいいところを見つけることはできたか」に対し、「できた」「少しできた」を合わせると100% ○「来年も参加したいか」に対し、「参加したい」「どちらかというに参加したい」を合わせると100% ○「この事業に参加してよかったか」に対し、「よかった」が100%</p>

(3)置賜教育事務所

【事業名】「おきたまジモディ(じもと×study)プログラム」

【期 日】 令和5年8月3日(木)

【場 所】 長井市平野コミュニティセンター

【内 容】 保存会の方から平山獅子踊りの歴史について講義を受け、その後、中学生が小学生に、踊りで使用する笛、太鼓の手本を見せたり、衣装の着方や草履のはき方などを教えたりした。その後、平山獅子踊りに関するクイズを出し、小学生は意欲的に歴史や文化を学ぶことができた。当日は別事業で平野コミセンを利用して15名程の高齢者の方々が見学に訪れ、昼食では小学生、中学生、地域の高齢者が一緒に交流することができた。

【その他】 本番までの準備日程

①5/25(木) ②7/30(日)

普及啓発活動

①11/29(水) ②12/7(木) ③ 12/12(火)

④12/14(木)

(4)庄内教育事務所

【事業名】「大沢で おおサイコー！な体験を
～じゅんさいとりにいこうよ～」

【期 日】 令和5年8月1日(火)

【場 所】 酒田市大沢コミュニティセンター

【内 容】 大沢地区で農業用ため池にじゅんさいが自生しており、2000年前後まで、じゅんさい採りが行われていたが、いつの間にか途絶えてしまった。2019年より、復活し、じゅんさい採り体験や販売を行うようになった。今回は、中学生が小学生にじゅんさい採りのコツなどを教えながら、実際にじゅんさい沼に入り、実体験を通じた地域のよさや魅力について学ぶ機会となった

【その他】 本番までの準備日程

①4/17(月) ②6/25(日) ④7/30(日)

普及啓発活動

①12/27(水)②1/19(金)③2/16(金)

(5)郷土愛事業担当者間打ち合わせ・学習会

①5/15(月) ②10/3(火) ③1/9(火)

(6)研修会・普及啓発活動の実施

①5/18(木)パワーアップセミナー

②2/9(金)成人期・高齢期教育研修会

③記述式アンケートより

[小学生]

○初めて知ることがあり勉強になった。

○地元のことをもっと勉強したい。

○中学生がやさしく教えてくれた。

○もっと知りたいし、興味をもつことができた。

[中学生]

○この事業を通して、小学生と仲を深めることができた。

○地域に貢献できてよかった。

○地元のことがもっと好きになった。

○地域のよさをみんなに発信できるようにしたい。

○このふるさとに生まれたことを誇りに思い、これからにつなげたい。

[運営協力者・自治体担当者]

○中学生が町のことについて学ぶきっかけとなり、そこから町のことや魅力、課題などを話していてよかった。

○参加した中学3年生が、来年、高校生として参加したいという声があり、他の中学生もまた参加したいとのことだったので、小・中・高生を対象にして、事業内容を検討したい。

○私たちが想定していた何倍も上の発想が出てくるので、その子どもの要望に応えられる材料や環境、対応が重要だと思った。

▲中学生が主体となる事業という点では、今回は準備期間が少なかった。

▲前年度から話をいただければ、もっと準備ができた。

▲中学生の多忙なスケジュールをおさえるのは非常に難しく、事前の企画から関わってもらうには、学校側の協力も必要だと思った。

(2)普及啓発について

①2/9(金)成人期・高齢期教育研修会での事例発表

②教育事務所ごと、公民館・コミセン担当者への事業説明会の実施

③生涯学習センター広報紙への掲載

3 郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる心を育成する

(2)山形の宝の保存活用・継承

事業名:伝統芸能育成事業 子ども伝承活動 ふるさと塾	
令和5年度事業の実施状況	成果(○)と課題(▲)
<p>1 市町村総合交付金の活用 30 市町村に交付決定</p> <p>2 記録保存システムの運用 350 コンテンツ アクセス回数 103,459 回(3 月末)(R4:94,650 回) (ページ閲覧+YouTube)</p> <p>(1)賛同団体の集約 ・310団体(3 月末現在) ※KPI:309(達成) ※学校の統廃合等により現状は減少傾向 ※4 団体に賛同証送付 (伊佐沢念佛踊り、尾花沢小茶道クラブ、徳良湖ヨット倶楽部、結城豊太郎記念館)</p> <p>(2)ふるさと塾アーカイブス取材 ・5団体を追加掲載 ①やまがた花笠塾 ②渡前小学校子ども獅子踊り ③高玉芝居 高栄会 ④新庄民話の会 ⑤山形伝統文化フェスタ(長瀬猪子踊り保存会、花笠舞踊団)</p> <p>(3)英語表記化に向けた取組み(57 コンテンツ) ・英語版サイトに 4 団体の紹介文等を英訳し公開 ①やまがた花笠塾 ②渡前小学校子ども獅子踊り ③高玉芝居 高栄会 ④新庄民話の会</p> <p>3 指導者の育成(4地区) 指導者研修会と出前講座を実施 39団体で実施(R6. 3月末現在)</p> <p>4 子どもたちの発表の機会 〔文化スポーツ振興課(博物館・文化財活用課)主管〕 (1)やまがた伝統文化フェスタ「ふるさと芸能のつどい」の実施 【期 日】11月 26 日(日) 【場 所】文翔館 議場ホール 【参 加】ふるさと塾賛同団体 2 団体 長瀬獅子踊クラブ、花笠舞踊団の披露と体験活動</p> <p>5 その他 (1)民俗芸能懇話会(博物館・文化財活用課主管) 【期 日】10月 13 日(金) 【内 容】情報提供、情報交換等</p>	<p>1 市町村総合交付金の活用 ○各市町村の要望を踏まえ、交付することができた。</p> <p>2 記録保存システムの運用 ○各地区からアーカイブス化する団体を選出してもらい、計画的に撮影・編集することができた。 ○国際ドキュメンタリー映画祭会場に英語のちらしを設置するとともに、ゲストに配付することができた。 ▲学校の統廃合により、ふるさと塾登録団体が減っている。今ある団体の存続や継続、発展も課題。 ▲講師や団体メンバーの高齢化に伴って活動が維持できない団体も出てきている。</p> <p>3 指導者の育成 ○研修会・出前講座の実施が地域で民俗芸能や伝統文化の継承に携わる方の励みとなっている。今後も継続してさらに充実させていきたい。 ○新しい団体からの申し込みもあり、多くの方に周知することができた。 ▲研修会・出前講座について、開催時期が早い団体を優先することが多く、他の団体に同じように機会を持たせられるよう募集の工夫等が必要。</p> <p>4 子どもたちの発表の機会 ○「ふるさと芸能のつどい」に、村山地区から 2 団体が出演、発表機会を設けることができた。 ▲「ふるさと芸能のつどい」は今年度で終了となる。R6 年度の子どもたちの発表の機会の場について検討が必要。</p> <p>5 その他 ○各団体の活動状況や要望等について情報交換しあうことができた。</p>

(3) 青少年の地域力の育成・地域活動の促進

事業名: 郷土愛・地域人材育成事業(地域青少年ボランティア活動推進事業)	
令和5年度事業の実施状況	成果(○)と課題(▲)
<p>1 中央センター事業</p> <p>(1)山形県地域青少年ボランティア推進会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回会議 5月10日(水) ※オンライン ・第2回会議 2月26日(月) ※オンライン <p>(2)YYボランティアビューロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動調査 ・ホームページ等による情報発信 ・夏の体験ボランティア (参加者総数) R5年度:1,387名 (R4年度:744名) ・YYボランティアに関する出前講座 ・高校生のボランティア活動実態調査 (公立高校3年生のボランティア経験率) R5年度:81.6%(R4年度:77.1%) <p>2 地区センター事業</p> <p>(1)地区地域青少年ボランティア推進会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サークル担当者との連絡調整・情報交換等 (年2回) 第1回推進会議 村山:5/12 最上:5/22 庄内:5/23 置賜:5/30 第2回推進会議 村山:2/2 最上:2/29 庄内:2/14 置賜:2/13 <p>(2)YYボランティアサークル活性化事業及び地域でボランティア活動に取り組む青少年増加に向けての事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 村山 ・MYボランティアスタートアップセミナー(6/20) ・MYボランティアスキルアップセミナー(8/1、2) ・MYボランティアサークル交流 【北村山】5/5 【西村山】10/9 【東南村山】12/23 ・YYボランティアサークル支援 ○ 最上 ・最上地区ヤングボランティア交流会&フェスティバル(2/3) ○ 置賜 ・置賜地区中高生ボランティアセミナー(8/2) ○ 庄内 ・庄内地区ボランティアサークルスキルアップ出前講座(7/10) 	<p>1 中央センター事業</p> <p>(1)県推進会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年2回の開催により、各地区の現状や活動について情報交換をすることができた。 <p>(2)YYボランティアビューロー</p> <ul style="list-style-type: none"> ①HPなどによる情報発信 ○YYボランティアビューローHPの閲覧数は、昨年度来、更新頻度増や一層の内容充実を図り、一日300PV~1000PVとなっている。 ・高3ボランティア実態調査 ○令和5年度は、78.0%で、学校外でのボランティア経験率が回復した。学校の外に高校生の活躍の場が増えており、地域もそれを求めていると考えられる。 ・夏の体験ボランティア ○令和5年度参加者数の内訳は、中学生は349名(昨年比+163名)、高校生は636名(昨年比+137名)の参加。受け入れ団体・施設から「若い人が来てくれて施設や利用者が元気になった」という趣旨の回答多い。 ▲参加してくれる施設・団体を増加させたいが、反面、担当者の負担が大きくなる。適正規模の見極め、参加団体とのやり取りの負担軽減の策の検討は必要である。事業の持続可能性も大事にしたい。 <p>2 地区センター事業</p> <p>(1)地区推進会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年2回の開催により、各市町村の取組についての情報交換を行うことができた。また、ワークショップ等を通じて、担当者同士、担当者とファシリテーターとのつながりをつくることができた。 <p>(2)YYボランティアサークルの活性化事業及び地域でボランティア活動に取り組む青少年増加に向けての取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サークル交流会、スキルアップセミナー、地域イベントへの参加など、ボランティアについて学習したことを地域で実践する機会や場を設けることにより、参加者がスキルや能力を発揮し、高い充実感を得ることができた。 <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲少子化や学校教育活動内のボランティア活動が重視されてきていることから、これまでのYボラの考え方(各市町村・地域の人々が運営、学校の枠を越えて、地域主体の活動)について、考え方と方向性の検討が必要である。

(3) 青少年の地域力の育成・地域活動の促進

事業名: 郷土愛・地域人材育成事業(次世代の地域づくり中核人材育成事業)	
令和5年度事業の実施状況	成果(○)と課題(▲)
<p>1 次世代の地域づくり中核人材育成事業 ※青年ファシリテーター15名 (R6年1月現在) (村山4名, 最上4名, 置賜3名, 庄内4名)</p> <p>(1) 村山教育事務所 【事業名】『いっしょに Link する? ~「やってみよう」をかたちに~』 【参画者】 高校生6名 【企画内容】 「Link MURAYAMA」(村山市)で開催する“やままる祭”において、村山市を元気にしたいというやままる祭実行委員会や地元企業の方と連携し、キーワードラリーを企画・運営した。来場した親子対象に、施設内に、ポウリング、まちがい探し、ぬり絵、動くスポットを設置し、施設内を巡る仕組みを考えた。考案したオリジナルキャラクターを用いて、キーワードラリーのパンフレットを作成し、来場者に村山市や施設の魅力を発信した。</p> <p>(2) 最上教育事務所 【事業名】「Youは何する? 最上(てっぺん)で!」 【参画者】 高校生 【企画内容】 ① 陸羽東線の最上町の駅名が書かれたくじを引いて、新庄駅から、引いた駅名の駅に出かけた。その駅の周辺を散策し、これまで知らなかった新たな魅力を「魅力発見マップ」にまとめた。1月から最上広域交流センターゆめりあに掲示の予定。 ② 旬の最上伝承野菜を使ったラーメンを考案し、試作した。投票により最上(てっぺん)ラーメンを決め、総合支庁内食堂の「お食事処千起」さんに提案した。千起さんが試作したすべてのラーメンを11月下旬から週替わり定食で提供していただいた。</p> <p>(3) 置賜教育事務所 【事業名】「おきぼら地域クリエイターcrossover」 【参画者】 高校生7名 【企画内容】 川西町こども食堂「なかよしキッチン」で、「SDGsババぬきカードゲーム」と「なぞとき迷路」を企画・実施し、参加した80名の親子に楽しんでもらった。</p>	<p>1 次世代の地域づくり中核人材育成事業</p> <p>○プログラムの構成を考えたり参画者への的確に助言したりするなど、青年ファシリテーターの存在は大きく、青年ファシリテーターが、中高生の「やりたい」という思いを引き出し、ファシリテートしてくれた。</p> <p>○イベントの主催者や地域の企業に対して、高校生参画者が自分たちの考えた企画を提案したり、必要な物品の調達を依頼したり、地域の大人と関わりながら企画を進めることができた。</p> <p>○管内の全ての高校に出向いてちらしを配布したことで、5つの高校から本事業に参画することになった。</p> <p>○中高生たちは、初めて自分たちでイベントを企画・運営していくことを経験できた。準備や当日の運営をとっても楽しんで行っている様子が見られた。地域のために自分たちができることを実施していくことの大切さを感じたようであった。</p> <p>▲青年ファシリテーターと直接会う機会が少なく、オンライン参加の会議が多くなった。話し合いの内容等によっては、参集しての会議等も必要であった。</p> <p>▲青年ファシリテーターの選出、委嘱に時間を要した。地域の青年リーダーに関する情報収集を積極的に行う必要があった。</p> <p>▲これまでの取組を高校生に普及</p>

(4)庄内教育事務所

【事業名】「三川町ボランティアサークル来夢来人の前進」

【参画者】高校生5名

【企画内容】

- ①みかわまち納涼祭という地域のイベントで、自分たちが企画した「ビンゴ大会」「クラフト体験コーナー」「フォトスポット製作」「レモネードスタンドプロジェクト レモネード販売」を行った。
- ②来夢来人の活動を紹介する冊子を中高生で分担して作成する。その冊子を中学校に配布し、活動内容の紹介をしていく。

2 未来の参画者養成事業(中学生セミナー)

(1)村山教育事務所

【事業名】「MYボランティアスキルアップセミナー」

【参加者】中学生54名

【期 日】令和5年8月1日(火)～2日(水)

【場 所】山形県青年の家

【内 容】ボランティア講話、グループワーク
実技講座、ボランティア体験
サークル紹介、施設訪問

(2)最上教育事務所

【事業名】「最上地区中学生ボランティアセミナー」

【参加者】中学生27名

【期 日】令和5年8月2日(水)

【場 所】最上広域交流センター ゆめりあ

【内 容】講話、サークル紹介、実技講座
フィールドワーク

(3)置賜教育事務所

【事業名】「置賜地区中高生ボランティアセミナー」

【参加者】中学生10名

【期 日】令和5年8月2日(水)

【場 所】飯豊少年自然の家

【内 容】講話、実技講座、
白樫学童クラブでの児童との交流

2 未来の参画者養成事業(中学生セミナー)

- MY ボランティアスキルアップセミナーでは、多くの申込みがあり、参加者の中から、MY ボランティアスタートアップセミナーに引き続き申込みがあり、事業を継続して展開することができた。(村山)
- 各市町ボランティアサークルの高校生・大学生 11 名が班付アドバイザーとして協力いただいたことにより、参加した中学生がより主体的に取り組む姿が見られた。(村山)
- 中学生の参加意欲が高く、積極的に参加したり、他校の参加者と交流したりしていた。(最上)
- フィールドワークを受け入れてくださった施設・団体の種類が多様で、様々な活動をすることができた。(最上)
- 参加者全員が参加してよかった、今後ボランティアや地域活動に参加したいという前向きな思いを持つことができた。また、2/3 の参加者がボランティアや地域活動に参画したいという思いを持つことができた。実際に、本事業の参加者 2 名が、自然の家主催事業にボランティアとして参加した。(置賜)
- 次世代の地域づくり中核人材育成事業と兼ねて実施したことで、中学生にも地域づくりに熱心に取り組んでいる方の話を聞く機会を持つことができた。また、中学生と高校生が共に活動することで、互いにより刺激を受けることもできた。(置賜)
- 参加した中学生は午後からの小学生との交流のことを考えて、午前中のスキルアップ講座を受講する姿が見られた。その結果、どのブースも小学生が楽しそうに体験することができていた。(庄内)

▲熱中症警戒アラート発令のため、外での活動は全て中止した。急な変更となったため、あらかじめ代替案を準備しておく必要があった。今後も夏は気温が上昇することが予想されるため、参加者の熱中症対策が必須となってくる。そのため、事業の開催時期や場所、内容、中学校の行事調整等を検討していく必要がある。

▲高校生ボランティアサークルのメンバーの参加が少なかった。高校生が入ってくれていた班は、中学生参加者をリードし、とてもスムーズに活動できていたため、全ての班にサポートに入れるくらいの人数がほしい。

<p>(4)庄内教育事務所 【事業名】「Yボラサマーチャレンジin庄内」 【参加者】中学生26名 【期 日】令和5年8月2日(水) 8月4日(金) 【場 所】鶴岡市朝暘武道館 遊佐町生涯学習センター 【内 容】サークル紹介、実技講座 小学生との交流</p>	<p>▲自然の家の事業と重なっていたことから所バスの使用ができなかった。次年度に向けて日程を再検討していく。また、終了時刻を少し遅くするなどして、ゆとりのあるプログラムを編成する必要がある。 ▲市町担当者の参加が少なかった。また、サークルで参加するところがなく予定していたサークル間の情報共有が実施できなかったのので来年度は、サークル担当者から多く参加してもらえるような体制をつくっていく。 ▲地区によっては、中学生の参加が得にくかった。そのためサークル担当者や会場近隣の中学校に連絡し参加のお願いを行った。学校によっては生徒のタブレットにチラシデータを送っていただいた。</p>
--	--

4 活力あるコミュニティ形成に向け地域の教育力を高める

(1)学校と家庭・地域の連携協働の推進

<p>事業名:学校・家庭・地域の連携協働推進事業</p>	
<p>令和5年度事業の実施状況</p>	<p>成果(○)と課題(▲)</p>
<p>1 地域と学校との連携協働推進協議会(生学課) 地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進を図るため協議会を開催し、協議する 【期 日】令和5年8月23日(水) 【内 容】令和5年度の事業概要及びコミュニティ・スクールと地域学校協働活動を活かした「働き方改革」につながった事例・成果・課題等について</p> <p>2 地域とともにある学校づくり研修会(教育事務所) 「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」「社会に開かれた教育課程」などキーワードを関連付けながら、学校関係者や子どもに関わる団体の関係者の理解を図り、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進を図る。 ※4 事務所の参加者合計 265 名 (教員等 77 名 行政 58 名 推進員等 40 名 その他 42 名 事務局 48 名)</p> <p>3 指導者の育成・学習機会の提供 (1)地域学校協働活動推進員養成講座の実施(生学課) 地域学校協働活動推進員等を対象として、学校と地域をつなぐコーディネーターとしての役割や各市町村の地域学校協働活動の事例、推進員同士のネットワーク形成を図るための研修会を開催し、推進員等の資質向上や相互の情報交換を図る。 <第1期> (日時)令和5年6月23日(金) (会場)山形県生涯学習センター遊学館 第1研修室 (参加数)33名 (事例提供者)堀川敬子氏(山形市立第一小学校 地域学校協働活動推進員)</p>	<p>1 地域と学校との連携協働推進協議会 ○各委員からそれぞれの学校等で実践している働き方改革につながる実践について情報共有することができた。</p> <p>2 地域とともにある学校づくり研修会 ○中央講師による講演や県内各地で活躍されている推進員、コーディネーターの事例提供、グループワーク等を通して、CS と協働活動の一体的推進の重要性について理解を深めることができた。参加者は、高い関心を持って研修会に参加した。 ▲教員等の参加者数が77名あったが、管理職や社会教育主事有資格者以外の教員参加者が少ない。より多くの先生方から参加してもらえるような方策が必要である。</p> <p>3 指導者の育成・学習機会の提供 (1)地域学校協働活動推進員養成講座 ○養成講座は、推進員同士のネットワーク形成を図る上で有意義な研修会となっている。 ▲グループワークや情報交換の時間をより多く設定する必要がある</p>

<p>内容:「山形市立第一小学校 地域学校協働活動の事例～いちサポの取組み～とグループワーク」 <第2期> 各教育事務所が主管となって実施 ※4事務所と生学課での参加者合計 148 名 (推進員等 70 名 行政 35 名 教員 13 名 その他 5 名 事務局 25 名)</p> <p>(2)コーディネーター等人材発掘 PTA指導者研修会(11 月開催)、退職教職員に向けて、推進員に関する周知文書の配付</p> <p>4 市町村補助事業の実施 ※地域学校協働活動・CS出前講座 村山 14 回 最上 2 回 置賜 3 回 庄内 6 回</p> <p>(1)運営委員会の設置 (2)地域学校協働活動推進員等の配置(282 名) (3)地域学校協働本部の整備と地域学校協働活動の実施 ・学校の働き方改革を踏まえた活動 (30 市町村 189 校予定) ・放課後等における学習支援や体験活動の実施 (32 市町村 148 校予定)</p> <p>(4)地域未来塾の実施 (14 市町村 22 校実施)</p>	<p>(2)コーディネーター人材発掘 ○令和 5 年度は募集ちらしを 450 部印刷し、配付した。 ▲対面での説明は、オンライン化に伴い R3 年度以降行っていない。</p> <p>4 市町村補助事業の実施 ○出前講座のニーズが年々高まっている。 ○補助事業については、交付申請の書類を適正に提出できるように説明会を開催するなど、市町担当者との連携を図りながら取り組むことができた。</p>
--	---

(1)学校と家庭・地域の連携協働の推進

事業名:放課後児童対策の推進 (山形県放課後子ども総合プランの推進)	
令和5年度事業実施状況	成果(○)と課題(▲)
<p>1 山形県放課後子ども総合プラン推進協議会の開催 (生学課・子ども成育支援課) 9/5(火)</p> <p>2 地域学校協働活動推進員養成講座の開催(再掲)</p> <p>3 指導者研修会の開催(教育事務所) ○村山:8月30日(水)(講演:本郷 一夫 氏) 11月15日(水)(実技研修) ○最上:6月20日(火)(講演:花笠ほーぷ隊) 10月31日(火)(実技研修) ○置賜:6月7日(水)(実技研修) 9月12日(火)(講演:島田 妙子 氏) ○庄内:6月9日(金)(講演:矢生 秀仁 氏) 7月11日(火)(実技研修) 11月21日(火)(講師:佐藤慎二氏)</p> <p>4 スミセイ放課後子ども総合プラン指導者研修会の開催 【日時】10月27日(金) 【会場】鮭川村中央公民館 【対象】放課後子ども教室関係者、放課後児童クラブ関係者、地域学校協働活動担当行政職員等 【内容】 ①スミセイアフタースクールプログラム(出前講座)の参観 ②ほうかご勉強会の受講</p> <p>5 市町村補助事業の実施 (全小学校区数 222) (1)運営委員会・学区ごとの協議会(一体型のみ必置)の設置 ※市町村の「行動計画」や「放課後子どもプラン」の策定、事業の充実及び連携の方策の協議 (2)地域学校協働活動推進員(コーディネーター)配置 (3)放課後子ども教室の実施 ・32 市町村 122「箇所実施(3月末) ※補助金利用なしの自治体含む (山形市・天童市・三川町) (R4:31 市町村 104 箇所) ※一体型 8 市町 16箇所(2箇所減) (4)放課後児童クラブの実施(主管;子ども成育支援課) ・34 市町村 342 箇所設置(R4:34 市町村 344 箇所)</p>	<p>1 放課後子ども総合プラン推進協議会 ○放課後子ども教室の実施や、放課後児童クラブの実態、参加している子どもたちの様子等について、現場の声を中心に情報交換や協議をすることができた。</p> <p>2 地域学校協働活動推進員養成講座 (再掲)</p> <p>3 地区指導者研修会 ○各地区とも充実した研修となり、満足度や次回への期待度が高く、子ども教室・児童クラブ関係者が学ぶ貴重な機会となっている。 ○4年ぶりに対面での実技研修を開催し、参加者に自らのニーズに合った研修機会を提供することができた。 ▲地区によっては会場の大きさや受け入れ体制などを考慮しつつ、より多くの参加者を集めて実施することを検討。 ▲開催場所が遠いという意見が出る地区があり、参加しやすくする工夫が必要である。 ▲参加者より経験年数の制限をなくしてほしいと要望があり、今後検討。</p> <p>4 スミセイ放課後子ども総合プラン指導者研修会 ○放課後子ども教室の参観プログラムでは、プロの出前講座が参観でき、ほうかご勉強会では、有意義な情報交換ができた。 ▲参加者が例年少ない傾向にある。周知の工夫をさらに図っていく必要がある。</p> <p>5 市町村補助事業の実施 (再掲)</p>

(1)学校と家庭・地域の連携協働の推進

事業名:PTA表彰及び研修事業	
令和5年度事業の実施状況	成果(○)と課題(▲)
<p>1 優良PTA表彰事業</p> <p>(1)優良PTA県教育委員会表彰選考委員会 ・令和5年5月に開催</p> <p>(2)優良PTA県教育委員会表彰(14団体)</p> <p>①山形市立第四小学校奨学会 ②山形市立第五中学校PTA ③村山市立楯岡小学校PTA ④東根市立東根小学校PTA ⑤金山町立金山中学校PTA ⑥最上町立向町小学校PTA ⑦南陽市立荻小学校PTA ⑧川西町立玉庭小学校PTA ⑨鶴岡市立大山小学校PTA ⑩鶴岡市立鼠ヶ関小学校PTA ⑪山形県立米沢養護学校PTA ⑫山形県立寒河江工業高等学校PTA ⑬山形県立小国高等学校PTA ⑭創学館高等学校</p> <p>(3)優良PTA文部科学大臣表彰(3 団体推薦)</p> <p>①村山市立楯岡小学校PTA ②鶴岡市立大山小学校PTA ③山形県立米沢養護学校PTA</p> <p>(4)PTA活動振興功労者文部科学大臣表彰(3 名)</p> <p>①荒井寛氏(県P連) ②鈴木真一氏(県P連) ③安食克彦氏(高P連)</p> <p>2 PTA指導者表彰 (「やまがた教育の日」関連事業)</p> <p>(1)期日:令和5年11月12日(日) (2)会場:遊学館 (3)内容:表彰、講演会 ※オンライン同時配信</p> <p>3 PTA資料「令和5年度優良PTA県教育委員会表彰受賞団体実践事例集」の作成 ・実践事例等の編集(520部) ・県内各単位PTA等への配布</p>	<p>1 優良PTA表彰事業</p> <p>○各教育事務所や関係団体の協力を得て、表彰事業を展開することで、子どもの健全育成を目指して主体的に取り組んでいるPTAを支援し、PTA活動の活性化を図った。</p> <p>▲現状の学校数(PTA団体数)に対する各地区の推薦数の割合を検討する。また、今後、義務教育学校が増えてくる中、小学校・中学校卒の対応を検討課題にしていく。</p> <p>2 優良PTA県教育委員会表彰式及び「やまがた教育の日」関連事業</p> <p>○ウェルビーイングというテーマをとoshi、学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てようとする機運を高めることができた。</p> <p>○子どもを取り巻く環境である家庭・地域・学校の大人が心に余裕をもって幸せな状態であることが、子どもや他者との関わりを深め、ウェルビーイングを向上させていくのだと理解を深めた。</p> <p>▲ハイブリッド形式での実施について、今後とも、実施内容・方法等についてはさらなる検討が必要となっている。</p> <p>3 PTA資料「令和5年度優良PTA県教育委員会表彰受賞団体実践事例集」の作成</p> <p>○実践事例集を発行し、広く優秀な事例を学ぶ機会とすることができている。</p> <p>▲事例集提供団体の負担を考慮し、様式・記載内容を検討。</p>

(2)地域の教育力を高める生涯学習環境の充実

事業名:成人期・高齢期教育担当者研修事業																											
令和5年度事業の実施状況					成果(○)と課題(▲)																						
<p>1 指導者研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日 令和6年2月9日(金) ・講師 天野和彦先生 (福島大学人間発達文化学類) ・内容 「郷土の魅力発見・体験プログラム」の各地区実施報告についての助言及び講演 <p>2 社会教育関係職員初任者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日:令和5年5月18日(木) ・場所:遊学館 ・講師:山形大学地域教育文化学部 安藤耕己氏 秋田県生涯学習センター社会教育主事 皆川雅仁氏 ・対象:市町村教育委員会社会教育関係職員、公民館関係職員等(1回目は経験1年未満の者または2年以上で過去に受講できなかった者) ・参加者:96名 <p>3 市町村研修等支援事業 ※出前講座…山形社教連助成事業</p> <table border="1" data-bbox="167 936 753 1066"> <tr> <td>年度</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>R元</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>箇所</td> <td>7</td> <td>13</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>12</td> </tr> </table>										年度	28	29	30	R元	2	3	4	5	箇所	7	13	10	10	6	5	7	12
年度	28	29	30	R元	2	3	4	5																			
箇所	7	13	10	10	6	5	7	12																			
<p>1 指導者研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「郷土の魅力発見・発見プログラム」の実践報告を通し、公民館等を中心に、人や地域のつながりの重要性、社会教育関係者の姿勢や果たすべき役割について考える機会となった。 ▲ハイブリッド形式での実施について、今後とも、実施内容・方法等についてはさらなる検討が必要。 <p>2 社会教育関係職員初任者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○財団との共催で、初任者を対象に、生涯学習・社会教育を推進するための必要な基礎知識や技能について研修を行い、参加者から高評価を得た。 ▲実践的な内容(熟議)を今後も充実させるべく、県生涯学習センターと連携を深める。 <p>3 市町村研修等支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研修関連経費補助を通じて、市町村等の研修を促すことができている。 ▲必要とする市町村が活用できるよう周知を工夫する。 																											

(2)地域の教育力を高める生涯学習環境の充実

事業名:社会教育主事養成事業	
令和5年度事業の実施状況	成果(○)と課題(▲)
<p>1 東北大学社会教育主事講習 【受講者】12名(県費負担職員10名・市町村職員2名) ・村山…小学校教員3名、市町村1名 ・最上…中学校教員1名、市町村1名 ・置賜…小学校教員1名 ・庄内…小学校教員1名、中学校教員2名 ・県行政…庄内教事1名、青年の家1名 ※「村山 A」「村山 B 置賜」「最上」「庄内」の4グループを編成</p> <p>(1)山形県事前研修(6/15 県青年の家) ・オリエンテーション、事前講義(石井山先生) ・グループごとのテーマ設定</p> <p>(2)東北大学等での研修 ①開講式(6/26 宮城県東北自治総合研修センター) ②東北自治総合研修センターでの研修(6/26~30) ③サテライト(各教事等)での研修 (7/3~5,7/29~8/3) ※7/29~8/1は自宅でのオンライン講習 ④グループワーク(7/12~21) ⑤東北大学での研修(7/6~11,7/24~25,8/3~8) ⑥閉講式(8/8)</p> <p>2 国立教育政策研究所社会教育主事講習</p> <p>(1)社会教育主事講習 A(7/11~8/30)…受講なし (2)社会教育主事講習 B(1/12~2/16) …教育局職員3名、市町村(山形・鶴岡)2名</p> <p>3 社会教育主事有資格教員研修(教育事務所) (1)村山…12/1実施(村山教育事務所) ※「地域とともにある学校づくり研修会」と共催 (2)最上…7/11実施(最上広域交流センター) ※「地域とともにある学校づくり研修会」と共催 (3)置賜…8/4実施(南陽市赤湯公民館) ※「地域とともにある学校づくり研修会」と共催 (4)庄内…6/15実施(三川町テオトル) ※「地域とともにある学校づくり研修会」と共催</p>	<p>1 東北大学社会教育主事講習 ○各教育事務所の各現場への働きかけで、12名の受講者を推薦することができた。</p> <p>▲ 毎年受講者はいるものの、有資格は減少しているため、主事講習参加への呼びかけ(県行政・学校(特に高校教育課))を行う。社会教育の充実のための資格取得が主な目的となるが、学校における「探究型学習の推進」などの牽引役など、学校教育での資格活用も積極的に広めたい。</p> <p>2 国立教育政策研究所社会教育主事講習 ○市町村に直接周知を図り、受講機会を確保できた。 ▲社会教育主事の資格について周知を幅広く行う必要がある。</p> <p>3 社会教育主事有資格教員研修 ○各地区「地域とともにある学校づくり研修会」と兼ねて開催する等幅広い参加を得られるように工夫した。 ▲参加者が管理職と有資格者以外の参加者がいない(CS 担当者、地域協働推進員等)ことから、一般教員に対する社会教育への理解促進が課題。</p>

I 令和6年度 社会教育の推進・生涯学習の振興

第6次山形県教育振興計画

基本目標

人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり

テーマ

つなぐ
～いのち、学び、地域～

基本方針

- I 「いのち」を大切に、生命をつなぐ教育を推進する
- II 豊かな心と健やかな体を育成する
- III 社会を生きぬく基盤となる確かな学力を育成する
- IV 変化に対応し、社会で自立できる力を育成する
- V 特別なニーズに対応した教育を推進する
- VI 魅力にあふれ、安心・元気な学校づくりを推進する
- VII 郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる心を育成する
- VIII 活力あるコミュニティ形成に向け、地域の教育力を高める
- IX 地域に活力を与える文化とスポーツを推進する

第5次山形県生涯学習振興計画

目標

一人ひとりの個性が奏であい
輝く山形の未来を拓く生涯学習
～自立、協働、創造～

生涯学習振興の重点

- 1 個人や地域の多様化するニーズを踏まえた
学習機会・学習内容の充実
- 2 地域づくり・絆づくりに係る活動の推進
- 3 持続可能な推進体制整備、人材育成機会の
提供等による市町村への支援

令和6年度の社会教育の推進・生涯学習の振興にあたっては、第6次山形県教育振興計画後期計画及び第5次山形県生涯学習振興計画に基づき施策を展開します。

また、「つなぐ ～いのち、学び、地域～」のテーマに沿って社会教育の施策を推進していくとともに、「自立、協働、創造」の観点に沿って生涯学習の振興を図ります。

また第5次山形県生涯学習振興計画の普及と啓発に引き続き取り組み、目標である「一人ひとりの個性が奏であい、輝く山形の未来を拓く生涯学習」の実現に向け、生涯学習振興の中核となる社会教育の更なる充実に努めます。

【6教振の基本方針における生涯学習の施策の柱】

1

豊かな心と健やかな体を育成する【基本方針II】

- ・保護者の学習機会の創出により、親の不安や悩みを軽減し、より温かい親子関係の構築につながるよう、家庭教育を推進します。(主要施策4)
- ・豊かな感性や人間味あふれる心、思いやりの心を育むために、読書活動や文化芸術活動を推進するとともに、様々な体験活動や奉仕活動の充実を図ります。(主要施策5)

2

変化に対応し、社会で自立できる力を育成する【基本方針IV】

- ・グローバル化に対応する実践的な力を育成するため、外国語(英語)教育を充実するとともにグローバルな視点を踏まえた地域課題に向き合う力の育成や、環境教育及び主権者教育・消費者教育の推進、高等教育の充実に取り組みます。また、児童生徒が抱える困難に応じた学びのセーフティネットの整備を行います。(主要施策8)

3

郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる心を育成する【基本方針VII】

- ・郷土愛を育み、地域と協働する教育の推進に向けて、郷土を学ぶ学習や地域資源を活用した様々な体験活動等、学校における取組みや、地域等と連携した取組みを推進します。(主要施策15)
- ・地域の文化財や伝統文化を「知る」「守る」「活かす」取組みにより、地域社会全体で郷土の伝統や文化への関心を高め、地域社会全体で継承に取組む機運の醸成を図り、文化財・伝統文化の総合的な保存活用・継承の取組みを促進します。(主要施策16)
- ・活力あるコミュニティ形成に向けて、児童や生徒、青年によるボランティア活動等の地域活動を促進するとともに、地域活動に取り組む青年リーダーの育成を推進します。(主要施策18)

4

活力あるコミュニティ形成に向け、地域の教育力を高める【基本方針VIII】

- ・学校を支援する活動や地域の教育力を高める活動などを、一体的・総合的に推進する仕組みを構築していきます。(主要施策17)
- ・地域の教育力を高めるとともに、地域コミュニティの活性化を図るため、知の拠点としての県立図書館をはじめとする社会教育関連施設の機能を充実するとともに、地域の活動の支えとなる中核的人材の育成のための支援を行います。(主要施策19)

II 令和6年度 社会教育・生涯学習 施策体系

【基本方針(施策の柱)】 【主要施策】 【事業名等】 【事業内容等】

第6次 山形県教育振興計画

【基本目標】
人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり

【テーマ】
つなぐ
いのち、学び、地域

【基本方針】

I 「いのち」を大切に、生命をつなぐ教育を推進する

II 豊かな心と健やかな体を育成する

III 社会を生きぬく基盤となる確かな学力を育成する

IV 変化に対応し、社会で自立できる力を育成する

V 特別なニーズに対応した教育を推進する

VI 魅力にあふれ、安心・元気な学校づくりを推進する

VII 郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる心を育成する

VIII 活力あるコミュニティ形成に向け、地域の教育力を高める

IX 地域に活力を与える文化とスポーツを推進する

【生涯学習振興の重点】

- 個人や地域の多様化するニーズを踏まえた学習機会・学習内容の充実
- 地域づくり・絆づくりに係る活動の推進
- 持続可能な推進体制整備、人材育成機会の提供等による市町村への支援

【目標】
一人ひとりの個性が奏であい 輝く山形の未来を拓く生涯学習
～自立、協働、創造～

第5次 山形県生涯学習振興計画

1 豊かな心と健やかな体を育成する

6教振の基本方針 II

(1) 教育の原点である家庭教育、幼児教育の推進
6教振の主要施策 4

学校・家庭・地域の連携協働推進事業
(家庭教育支援の推進、幼児共育の推進)

- 家庭教育支援推進協議会 (国庫補助)
- 家庭教育支援フォーラム (国庫補助)
- 市町村補助 (国庫補助)
- (やまがた子育て講座の実施)
(幼児共育ふれあい広場の実施)
- 家庭教育電話相談の開設 (県費)
- やまがた子育て生活習慣改善 (国庫補助)
- 「やまがた教育の日」記念講演 (県費)

(2) 豊かな心の育成
6教振の主要施策 5

多様な子どもの読書活動推進事業

- 子どもの読書活動推進研修会 (県費)
- 子どもの読書活動推進講座 (国庫補助)
- 新しい読書のカタチ普及啓発 (県費)

2 変化に対応し、社会で自立できる力を育成する

6教振の基本方針 IV

(1) グローバル化等に対応する実践的な力の育成
6教振の主要施策 8

青少年環境教育事業

- 不登校児童生徒教育機会確保等の検討 (国庫補助)

(1) 郷土愛を育み、地域と協働する教育の推進
6教振の主要施策 15

視聴覚教材普及事業

- 自作視聴覚教材コンクール (県費)
- 視聴覚教材の普及・活用 (県費)

郷土を知る情報ポータルサイト運用管理事業

- ポータルサイト「ふるさと山形発見ナビ」の運用管理 (県費)

郷土の魅力発見・体験プログラム普及事業

- 公民館等職員への郷土愛プログラム企画立案支援 (県費)

(2) 山形の宝の保存活用・継承
6教振の主要施策 16

伝統芸能育成事業
子ども伝承活動 ふるさと塾

- 市町村への活動支援(市町村総合交付金) (県費)
- 記録保存システムの運用 (県費)
- 指導者研修会・出前講座 (県費)

(3) 青少年の地域力の育成・地域活動の促進
6教振の主要施策 18

地域青少年ボランティア活動推進事業

- 中央センター (推進会議・YYボランティアビューロー・YYボランティア活動推進)
(県青年の家主催関連事業) (県費)
- 地区センター (推進会議・YYボランティア活動推進) (県費)

次世代の地域づくり中核人材育成事業

- 次世代の地域づくり中核人材育成 (県費)
- 未来の参画者養成 (県費)

3 郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる心を育成する

6教振の基本方針 VII

(1) 学校・家庭・地域の連携・協働の推進
6教振の主要施策 17

学校・家庭・地域の連携協働推進事業

- 県推進協議会の開催 (国庫補助)
- 指導者の発掘・育成・学習機会の提供 (国庫補助)
- 市町村補助 (国庫補助)

(地域学校協働活動の推進)

- (地域学校協働本部の設置)
(地域学校協働活動推進員の配置) (国庫補助)
- 地域と学校との連携協働推進協議会 (国庫補助)
- 市町村補助 (国庫補助)

(山形県放課後児童対策の推進)

- (運営委員会の設置)
(地域学校協働活動推進員の配置)
(地域学校協働活動の実施) (国庫補助)
- 山形県放課後子ども支援推進協議会 (国庫補助)
- 放課後子ども指導者等研修会 (国庫補助)
- 市町村補助 (国庫補助)

4 活力あるコミュニティ形成に向け、地域の教育力を高める

6教振の基本方針 VIII

(2) 青少年の地域力の育成・地域活動の促進【再掲】
6教振の主要施策 18

成人期・高齢期教育担当者研修事業
(学びと協働による地域コミュニティ活性化事業)

- 市町村における成人期・高齢期の学習の調査 (県費)
- 指導者研修会 (県費)
- 社会教育関係職員研修等 (県費等)
- (他 県生涯学習センター主催事業 等)

社会教育関係団体の支援

- 社会教育関係団体事業費補助金 (県費)

県立図書館の整備・充実

- 県立図書館運営 (県費)
- 図書資料整備 (県費)
- 奉仕活動 (県費)
- 図書館協議会 (県費)

県民が集い・学ぶ県立図書館整備

- 県民が集い・学ぶ県立図書館活動整備 (県費)

(3) 地域の教育力を高める生涯学習環境の充実
6教振の主要施策 19

県立博物館の整備・充実

- 県立博物館運営 (県費)
- 調査研究、資料収集、教育普及活動 (県費)
- 博物館協議会 (県費)
- 企画展の開催 (県費)

県青少年教育施設の整備・充実

- 県青少年教育施設運営 (県費)
- 研修事業の実施 (県費)
- 県青少年教育施設整備充実 (県費)

県社会教育委員の会議
県生涯学習検討委員会

- 県社会教育委員の会議 (県費)
- 県生涯学習検討委員会 (県費)

社会教育主事養成事業

- 社会教育主事講習への派遣 (県費)
- 社会教育主事有資格教員研修 (県費)

生涯学習施設の整備・充実

- 生涯学習センター管理運営 (県費)
- 生涯学習センター施設整備 (県費)

生涯学習振興に係る連絡調整

- 関係部局、県生涯学習センター等との連携 (県費)

IV 令和6年度 社会教育・生涯学習関係 事業計画

1 豊かな心と健やかな体を育成する

(1)教育の原点である家庭教育、幼児教育の推進

家庭教育は教育の原点であり、すべての教育の出発点である。しかし、家庭を取り巻く環境の変化に伴い、子育てに不安や悩みを持つ親が増え、家庭の教育力の低下が指摘されている。こうした今日的な家庭教育の課題に対応し、子どもたちが生涯にわたる人格形成の基礎を培っていきけるよう、社会全体で家庭教育を支えていくことが必要である。

令和6年度も、相談機会を拡充する事業に重点を置いて取り組む。電話相談に加え、地域活動団体が家庭教育や子育ての相談受付ができるように活動事例の普及や活動を支えるネットワークづくりを進める。また、様々な環境にある保護者が家庭教育に関する情報を得られるよう SNS 等様々な媒体を使って情報提供を行う。

事業名等	事業の目的・内容	実施主体
<p>学校・家庭・地域の連携協働推進事業 (家庭教育支援の推進)</p> <p>◇H11 年度開始 H16 年度組替 H22 年度事業統合 H28 年度事業統合</p> <p>95,770千円 (国補助、県費)</p>	<ul style="list-style-type: none">●目的 家庭の教育力及び地域の教育機能向上のために、保護者等を対象に家庭教育に関する学習機会や相談機会を提供するとともに、家庭教育支援者の資質向上のための研修会を実施するなど、家庭教育支援の充実を図る。 ●内容 <ol style="list-style-type: none">1 県家庭教育支援推進協議会<ul style="list-style-type: none">○対象 推進委員(11名程度)○期日・場所 年間1回開催 8月27日(火)○主な活動 県の方針や推進施策の計画・検証 2 家庭教育支援フォーラム<ul style="list-style-type: none">○期日・場所 県内4地区○主な活動 家庭教育支援者の資質向上とネットワーク構築を図る研修等※家庭教育支援フォーラムの場でネットワークづくりを行い、地域活動団体が活動時に相談受付を行うことをサポートできるようにする。※地域で相談受付などの家庭教育支援にかかわる活動をしている団体の事例を紹介し、普及を図る。 3 やまがた子育て講座【市町村補助事業】<ul style="list-style-type: none">○対象 学校等保護者、PTA関係者 他○期日・場所 未定○主な活動 家庭教育に関する講話や座談会 等 4 家庭教育電話相談の開設<ul style="list-style-type: none">○主な活動 「ふれあいほっとライン」実施<ul style="list-style-type: none">①年間を通じて相談を受付②相談員による相談受付:月～金 9:00～16:15※祝日等は除く③電話(含留守番電話)、FAX、メールにて受付 5 やまがた子育て生活習慣改善<ul style="list-style-type: none">○実施機会 家庭教育に関する講座や就学時健診時等○主な活動①家庭教育に関する保護者向けの啓発<ul style="list-style-type: none">②保護者向け学習資料リーフレットの活用③県家庭教育アドバイザーの委嘱及び資質向上を図る研修(4月16日(火)実施)	<p>生涯教育・学習振興課</p> <p>教育事務所</p> <p>市町村</p> <p>生涯教育・学習振興課</p>

	<p>6 「やまがた教育の日」記念講演 (県優良PTA表彰式と同日開催・やまがた教育の日)</p> <p>○対 象 保護者、教員 他</p> <p>○期日・場所 11月9日(土) 場所未定</p> <p>○主な活動 子どもの生活習慣に関する指針・家庭教育に関連したテーマによる講演・講座等</p>	
<p>学校・家庭・地域の連携協働推進事業</p> <p>(幼児共育の推進)</p> <p>◇H17年度開始 H22年度事業統合</p>	<p>●目的 「家庭」「幼稚園・保育所等」「地域」が連携して、幼児期の子どもを育む「幼児共育」の実践的な活動を推進する。</p> <p>●内 容 1 幼児共育ふれあい広場【市町村補助】</p> <p>○対 象 幼稚園・保育所等保護者 他</p> <p>○期日・場所 30市町村163箇所(予定)</p> <p>○主な活動 人やモノ、自然とのかかわりを通して親子のふれあいを大切にした様々な体験活動 等</p>	市町村

(2)豊かな心の育成

本県では、新たに「第4次山形県子ども読書活動推進計画」を策定し、学校・家庭・地域などが連携し、社会全体で子どもの読書活動に取り組む「多様な子どもの読書活動」を推進する。さらに、子どもが生涯にわたる読書習慣を身につけるためには、親自身が日頃から家庭での読書活動を大切にするとともに、乳幼児期からの読み聞かせの必要性や効果的な取組み、発達段階に応じた多様な読書の在り方などについて理解を深めることが必要である。こうした考えを踏まえ、今年度は以下の事業を推進する。

事業名等	事業の目的・内容	実施主体
<p>多様な子どもの読書活動推進事業</p> <p>◇R6年度開始</p> <p>475千円 (国補助、県費)</p>	<p>●目的 多様な子どもの健全な心身の発達を促し、自ら「本」に親しむ、読書好きな子どもを育てるために、子どもの発達段階や環境に応じた、個別最適読書活動を実現するため、家庭・地域・学校等社会全体を通じた多様な読書の考え方やあり方の普及・推進をはかる。</p> <p>●内 容 1 子どもの読書活動推進研修会</p> <p>○対 象 読み聞かせサークル及び図書館関係者及び教員等</p> <p>○期日・場所 県内4地区</p> <p>○主な活動 ①多様な子どもの個別最適な読書活動推進の普及・啓発 ②アクセシブルな書籍や電子書籍についての理解や活用方法の習得等</p> <p>2 子どもの読書活動推進講座</p> <p>○対 象 幼児～小学校までの子どもとその親 他</p> <p>○期日・場所 県内4地区</p> <p>○主な活動 ①親子を対象とした、地域の施設等を含む教育資源の活用による魅力的な読み聞かせ講座の提供 ②多様な読書活動の考え方やあり方を普及する新たな実践。 ③家読や親子読書等、家庭における読書習慣形成の参考となるような取組み。</p>	<p>教育事務所</p> <p>教育事務所</p>

2 変化に対応し、社会で自立できる力を育成する

(1)グローバル化等に対応する実践的な力の育成

平成28年12月の「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律(教育機会確保法)」の制定により、フリースクール等の民間支援団体等における学校以外の場での活動の重要性が示された。これを受け、本県でも令和4年度、不登校児童生徒の自立支援ネットワーク構築推進会議を立ち上げた。令和6年度は、より具体的かつ持続的な連携体制を推進していく。

事業名等	事業の目的・内容	実施主体
<p>青少年環境教育事業 (不登校児童生徒教育機会確保等の検討) ◇R2 年度開始</p> <p>383千円 (国補助、県費)</p>	<p>●目的 不登校児童生徒を支援する学校、教育支援センター、フリースクール等民間支援団体等によるネットワークを推進し、不登校児童生徒の将来の社会的な自立をめざした教育相談体制の整備充実を図る。</p> <p>●内容</p> <p>1 不登校児童生徒が通うフリースクールなど民間支援団体と在籍する学校との連携状況調査 ○対象 小中学校 ○期日・場所 6月 ○主な活動 学校定期調査として実施、集約する。</p> <p>2 不登校児童生徒の自立支援ネットワーク推進会議 ○出席者 民間支援団体支援者、有識者、市町村教育支援センター指導者等で構成する委員 ○期日・場所 10月8日(火) 県庁内(オンライン予定) ○主な活動 ①民間支援団体や教育支援センター、相談支援機関、SSW 等と学校とのよりよい連携や支援の在り方について情報を共有し推進する。 ②『不登校児童生徒の支援ハンドブック』の改訂の進捗状況の報告及び意見を聞き、改訂の方向性に関する意見聴取。</p> <p>3 地区ネットワーク会議(県内4地区) ○出席者 市町村教委担当者、民間支援団体支援者、福祉関係課、教育事務所指導課及び社会教育課、義務教育課、生涯教育・学習振興課等 ○期日・場所 2回開催・各教育事務所 ○主な活動 地区における民間支援団体と市町村教委との顔の見える連携体制の推進及び支援者の資質の向上を図る。</p> <p>4 不登校児童生徒の自立支援ネットワーク研修会 ○対象 民間支援団体支援者、市町村教育支援センター指導者、市町村教委職員、小中高等学校教員等 ○期日・場所 11月19日(火) 県庁内(ハイブリッド型開催予定) ○主な活動 民間支援団体や教育支援センター、SSW、SC 等と学校との連携支援の話題提供によるシンポジウム及び情報交換会を開催し研修を深め、地域の支援団体と教育支援センター、教員と関係構築のきっかけとする。</p> <p>5 『不登校児童生徒の支援ハンドブック』改訂 ○対象 教員、教育支援センター職員、民間支援団体、教育・福祉行政関係者等 ○内容 令和3年度発行の『不登校児童生徒の支援ハンドブック』を、国の方針や、4年間の事業を通して得られた成果や取り組み事例をまとめ、ホームページ上で公開する(令和7年3月予定)。</p>	<p>生涯教育・学習振興課</p> <p>生涯教育・学習振興課 義務教育課</p> <p>生涯教育・学習振興課 義務教育課 教育事務所指導課</p> <p>生涯教育・学習振興課 義務教育課</p> <p>生涯教育・学習振興課 義務教育課</p>

3 郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる心を育成する

(1)郷土愛を育み、地域と協働する教育の推進

子どもから成人に至るまで利用できる自作の視聴覚教材の制作を奨励し、郷土の自然・歴史・文化等に関する教育活動を推進することにより、郷土を愛し、地域とつながる心を持つ人材を育成していく。

令和6年度も、引き続き自作視聴覚教材コンクールを実施し、優秀作品はインターネットサイト「ふるさと塾アーカイブス」に掲載し、普及を図る。また昨年度に引き続き、市町村公民館職員等が「中学生が企画運営する『小学生向けの地域学習活動』プログラム」を実施できるよう支援する「郷土の魅力発見・体験プログラム普及事業」を実施する。

事業名等	事業の目的・内容	実施主体
視聴覚教材普及事業 ◇H21 年度開始 172千円 (県費)	●目的 自作の視聴覚教材制作を奨励し、郷土の自然・歴史・文化等に関する教材提供を可能にすることにより、郷土に誇りを持ち地域とつながる心を持つ人材を育成する。 ●内容 1 第73回 県自作視聴覚教材コンクール ○対象 視聴覚教材を自作している団体・個人 ○期日・場所 表彰式・発表会 2月15日(土) 遊学館 ○主要内容 審査及び表彰・発表 ○審査会 1月17日(金)遊学館(非公開) 2 自作視聴覚教材の活用・普及 ○対象 県自作視聴覚教材コンクール、全国自作視聴覚教材コンクールで優秀な成績を収めた作品 ○主な活動 ふるさと塾アーカイブスへの掲載及び周知	生涯教育・学習振興課
郷土を知る情報ポータルサイト運用管理事業 ◇R4 年度開始 1,027千円 郷土の魅力発見・体験プログラム普及事業 ◇R4 年度開始 28千円	●目的 子どもをはじめとした県民が郷土に誇りと愛着を持ち、地域社会の担い手となる心を育成することにより、本県への定着・回帰を進めるため、本県の魅力(豊かな自然、地域の歴史や文化、産業など)について理解を深める取組みを推進する。 ●内容 1 ポータルサイト「ふるさと山形発見ナビ」の運用管理 ○対象 主に小中高生 ○主な活動 GIGA スクール構想で整備した一人一台端末において、郷土に関する資料を検索しやすい環境を整備することで、児童・生徒が探究型学習等に取り組みやすい環境を整備する。 2 郷土の魅力発見・体験プログラムの普及 (公民館等職員への郷土愛プログラム企画立案支援) ○対象 市町村公民館職員等 ○主な活動 市町村公民館職員等が『中学生が企画運営する「小学生向けの地域学習活動」プログラム』を実施できるよう支援し、全県への普及を図る。 ①全県の市町村公民館職員等を対象とした「事業企画立案研修会」実施 ②各教育事務所が、県内4地区1市町村公民館における「中学生が企画運営する『小学生向けの地域学習活動』プログラム」の実施を伴走支援	生涯教育・学習振興課 生涯教育・学習振興課 教育事務所

(2)山形の宝の保存活用・継承

本県では、地域の民俗芸能等の伝統文化を子どもたちへ伝承する団体を「ふるさと塾賛同団体」として登録を推進しており、地域の祭りや行事などへ参加する小中学生の割合が高く、地域とのつながりが全国的にも高い傾向にある。一方で少子高齢化という課題にも直面しており、伝承活動が難しくなっている地域もある。

地域の伝統文化や民俗芸能を子どもたちに伝承することは、大人と子どもの世代間交流を創り出し、地域コミュニティの活性化へとつながっていく。令和6年度も「ふるさと塾賛同団体」の取組みを推進することで、次世代の地域をつくる人材の育成を図っていく。

事業名等	事業の目的・内容	実施主体
<p>伝統芸能育成事業 子ども伝承活動 「ふるさと塾」</p> <p>◇H17年度開始 (文化環境部)、 H19年度より 県教委に移管 H24年度事業統合</p> <p>1,901千円 (県費)</p> <p>市町村総合交付金 4,025千円 (県費)</p>	<p>●目的 子どもの郷土愛の醸成、地域コミュニティの活性化、地域文化の保存・伝承を通じて、子どもの社会力の育成を目指し、親から子、子から孫の代へ「ふるさと山形」のよき生活文化や知恵、民俗芸能などの素晴らしい地域文化を教え合い、学び合いながら、伝承していく活動を推進していく。</p> <p>●内容</p> <p>1 記録保存システム「ふるさと塾アーカイブス」の運用 ○主な活動 ふるさと塾活動賛同団体の伝承活動を記録・保存し次世代に伝えるとともに、インターネットによる公開によりふるさと塾の活性化を図る。</p> <p>2 指導者の育成を目的とした研修会・出前講座の開催 ○対象 ふるさと塾賛同団体、文化伝承活動に取り組む学校等 ○期日・場所 5月～3月 各地区 ○主な活動 出前講座・研修会(4地区毎10か所程度の団体や学校で開催)地域文化の伝承に携わっている方々を対象とした研修会や文化伝承活動に取り組む学校や賛同団体等へ指導者を派遣する出前講座を開催し、地域の実情に応じた課題の解決、団体同士のネットワークの形成及び指導者の資質向上を図る。</p> <p>3 市町村総合交付金による「ふるさと塾」活動支援 ○対象 35市町村 ○主な活動 地域文化継承の基盤づくりを目的に市町村総合交付金を交付し、市町村が「ふるさと塾」活動をする。</p>	<p>生涯教育・学習振興課</p> <p>教育事務所</p> <p>市町村</p>

(3)青少年の地域力の育成・地域活動の促進

本県の青少年ボランティア活動については、各地の青少年ボランティアサークル活動が「山形方式」と呼ばれ、地域の方々から親しまれてきた。こうした青少年の主体的なボランティア活動は、参加者自身の社会力向上に繋がるとともに、子どもたちの地域での活動の充実に資するなど、重要な教育資源である。青少年ボランティアサークル活動の活性化に向けて、ボランティア活動を開始するきっかけとなる体験機会や、ボランティアサークル会員の意欲向上につながる交流機会、ボランティア活動をコーディネートする人材養成のための研修機会の充実が必要である。

近年は中高生のボランティア活動への主体的な参加の機会の減少に加え、コロナ禍による交流の機会とセミナー体験の減少による、仲間づくりの貴重な機会が少なくなる場面や、セミナー参加によるボランティア活動のやりがいや自己有用感をもつ場、生徒の生きる力を育む場が不足する場面が多かった。

令和6年度も、中央センターと地区センターが連携し、推進会議をはじめ、各センターでの事業を実施することを通して、ボランティア活動に参加する中高生への学習や交流の機会の提供し、ボランティア活動に主体的に参加する児童生徒を増やし、地域課題の解決に積極的に関わる「地域をつくる人」の育成を目指す。

青年層の活動については、活動意欲にあふれる20歳代を中心とする団体が各地で地域活動を開始するなど、地域活動が活性化する兆しが感じられるが、なかなか活動の輪が広がらず活動の継続が難しいなどの課題が指摘されている。このため、地域活動に関心を持つ青少年を対象とする学習機会や、次の世代の活動者育成のための事業が必要とされている。

「次世代の地域づくり中核人材育成事業」では、本事業に関わった青年ファシリテーター等のこれまでの企画・実施及び発表等の取組を紹介することを通して、高校生が地域活動に目を向け、地域の良さを再認識し、地域の魅力を発信していけるような次世代リーダーを育成する。「未来の参画者養成事業」については、地域活動に興味関心はあっても、実際に活動を体験する機会が得られない中学生に対して、地域づくりの知識習得やスキルアップに関する講座に参加することを通して、将来の地域の担い手となる人材を早期に育成する。

事業名等	事業の目的・内容	実施主体
<p>地域青少年ボランティア活動推進事業 ◇H17年度開始 H22年度事業変更</p> <p>494千円 (県費)</p>	<p>●目的 青少年に対し意図的、計画的に「ボランティア活動」などの多様な体験活動の機会を提供し、交流を通して、コミュニケーション能力や豊かな心の育成、望ましい人間形成を図るとともに、ボランティア活動に主体的に参加する児童生徒の数を増やし、地域課題の解決に積極的に関わる「地域をつくる人」の育成を目指す。</p> <p>●内容 1 中央センター ○中央センターとして、青少年の課題に関する調査研究、相談及び支援、研修のための便宜の供与及び指導助言を行う。 ○YY ボランティアビューローを運営し、青少年ボランティア活動に係る情報の収集・集約・発信及び関係会議を主催し、本県の青少年ボランティアの活性化を図る。 ○主な活動 ①山形県地域青少年ボランティア推進会議の開催(年2回) ②ホームページの管理運営 ③YY ボランティアサークル支援(団体名簿作成、出前講座) ④「夏の体験ボランティア」に関する情報収集及び提供 ⑤高校3年生のボランティア活動実態調査 2 地区センター ○青少年に対し、ボランティア活動など社会奉仕体験活動、自然体験活動その他の体験活動の機会を提供する事業の実施及びその奨励を図る。 ○管内の青少年ボランティア活動の状況とYY ボランティアサークルの活動の状況を把握し、活動情報を市町村担当者と共有しながら、青少年ボランティア活動の推進を図る。 ○主な活動 ①地区地域青少年ボランティア推進会議の開催(年2回) ②YY ボランティアサークル支援</p>	<p>県青年の家</p> <p>教育事務所</p>
<p>次世代の地域づくり中核人材育成事業</p> <p>(次世代の地域づくり中核人材育成) ◇R2年度開始 157千円 (県費)</p>	<p>●目的 「次世代の地域づくり中核人材育成」では、本事業に関わった青年ファシリテーター等のこれまでの企画・実践及び発表等の取組を紹介することを通して、高校生が地域づくり活動に目を向け、地域の良さを再認識し。地域の魅力を発信していけるような次世代リーダーに期待される資質能力を育成するとともに、県内各高校生同士の相互交流及びネットワーク形成を図る。 また、「未来の参画者養成」では、「地域をよくしたい」「役に立ちたい」という高い意識をもちながら、学校外での社会貢献活動や交流活動を体験できずにいる中学生に対し、ボランティア活動や地域づくりに関する知識やスキルを身に付ける講座を開催し、地域における未来の参画者を養成する。</p> <p>●内容 ○対象 各高校の生徒会役員や地域づくりに興味がある高校生 ○期日・場所 令和6年12月8日(庄内会場) 令和6年12月15日(内陸会場) ○主な活動 ①各高校の生徒会役員並びに地域づくりに興味がある高校生を募集し、交流やワークショップ等を開催 ②各学校が実践してきた地域活動を紹介するポスターセッションの実施 ③青年ファシリテーターの実践体験講話や青年団体の年間活動等を紹介 ④大学教授の講義とワークショップを通して、参加者同士の地域づくり活動に関する情報交換と学びの共有</p>	<p>県青年の家</p>

	<p>2 地域とともにある学校づくり研修会 ○対 象 教員、市町村教育委員会職員、地域ボランティア関係者 ○期日・場所 各教育事務所の実施計画による ○主な活動 学校教育関係者を対象として、「社会に開かれた教育課程」や「学校を核とした地域づくり」「コミュニティ・スクール」など一連の教育施策と関連づけながら、地域学校協働本部の必要性やメリットへの理解を深める研修会や出前講座を開催し、各市町村における本部の設置の拡充と機能の充実を図る。</p> <p>3 地域学校協働活動推進員養成講座(年 2 回) ○対 象 地域学校協働活動推進員等、市町村教育委員会職員 ○期日・場所 第1期 生涯教育・学習振興課主管 6/21(金) 第2期 各教育事務所主管(8月～12月) ○主な活動 地域学校協働活動推進員等を対象として、学校と地域をつなぐコーディネーターとしての役割や各市町村の地域学校協働活動の事例、推進員同士のネットワーク形成を図るための研修会を開催し、推進員等の資質向上や相互の情報交換を図る。</p> <p>4 市町村補助事業【国 1/3 県 1/3】 ○主な活動 ①推進・運営委員会の設置…市町村全体における事業の企画・立案及び評価・成果の普及、ボランティアの研修など ②地域学校協働活動推進員等(コーディネーター)の配置 ③地域学校協働本部の整備と地域学校協働活動の実施 ・学校の働き方改革を踏まえた活動 ・放課後等における学習支援や体験活動の実施 ④地域未来塾(地域住民による学習支援)の実施 ⑤保護者への家庭教育を学び講座や親子を対象としたふれ合い活動の実施</p>	<p>教育事務所</p> <p>生涯教育・学習振興課 教育事務所</p> <p>市町村</p>
<p>(山形県放課後児童対策の推進)</p> <p>※H19～放課後子ども教室推進・H27 放課後子ども総合プラン推進</p> <p>※R5～放課後児童対策パッケージ推進</p>	<p>●目 的 放課後や学校外活動における子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進し、地域の教育力の向上を図る。</p> <p>●内 容 1 放課後子ども支援推進協議会【再掲】 ○対 象 放課後子ども教室コーディネーター、放課後児童支援員、有識者、社会教育行政関係者、子育て・福祉部局関係者等 ○期日・場所 8月20日(火) ○主な活動 県内全域で子どもの健全育成を図り、市町村における「放課後児童対策パッケージ」の取組みの促進のために、十分な意見聴取を行い、関係機関や福祉部局との協力体制を構築する。</p> <p>2 地域学校協働活動推進員養成講座の開催【再掲】 ○主な活動 各市町村が設置するコーディネーターの資質向上や相互の情報交換を図る。</p> <p>3 放課後子ども指導者等研修会 ○対 象 放課後子ども教室指導者、放課後児童支援員、社会教育行政関係者等 ○期日・場所 5月～3月 各地区 ○主な活動 放課後子ども指導者等研修会 ①放課後子ども指導者等研修会(4地区毎に年 2 回以上) 「放課後子ども教室」及び「放課後児童クラブ」における指導者や教員等を対象に実施する。</p>	<p>生涯教育・学習振興課 子ども成育支援課</p> <p>生涯教育・学習振興課 教育事務所</p> <p>教育事務所 総合支庁</p> <p>生涯教育・学習振興課 教育事務所</p>

	<p>②スミセイ放課後子ども指導者等研修会 県と住友生命との包括連携協定により、「スミセイアフタースクールプロジェクト」を通じた、放課後子ども教室における子ども向けのプログラムと指導者向けの研修会を実施する。</p> <p>4 市町村補助の実施【国 1/3 県 1/3】 ○対 象 34 市町村(山形市除く) ○主な活動 ①運営・推進委員会・学区毎の協議会(校内交流型)の設置 ②地域学校協働活動推進員等(コーディネーター)の配置 学校や地域の団体、ボランティア、放課後児童クラブ、保護者等を結ぶ核となる人材の配置 ③「放課後子ども教室」の実施 すべての子どもを対象に、地域住民等の参画や地域の特色を生かして実施する学習支援や体験活動の機会を提供</p>	市町村
<p>社会教育研修事業 (優良PTA県教育委員会表彰・PTA 実践事例集)</p> <p>◇S57 年度開始 169千円 (県費)</p>	<p>●目 的 PTA活動の活性化を図るとともに、家庭・地域・学校が協働して子どもの成長を支える重要性について理解を深める。あわせて県内優良PTA団体の表彰を行い、広く優秀な事例を学ぶ機会とする。</p> <p>●内 容 1 優良PTA表彰 ○対 象 県内のPTA組織 ○主な活動 ・県教育委員会表彰選考委員会(5月)、表彰(11月9日予定) ・優良PTA文部科学大臣表彰の推薦(6月) 2 PTA実践事例集作成 ○主な活動 優良PTA県教委表彰受賞団体の実践をまとめた事例集作成</p>	生涯教育・学習振興課

(2)地域の教育力を高める生涯学習環境の充実

本県では、平成30年に「第5次山形県生涯学習振興計画」を策定し、学習機会の充実や推進体制・学習環境の整備のための施策を推進している。今後の地域活性化に取り組むには、すべてのライフステージで学習機会が提供され、他者と協働して地域課題の解決に向かう活動をするなど、より積極的な活動を推進する必要があり、そのための交流機会やネットワークづくりが必要である。

また、民間の社会教育関係団体等も社会教育の推進に大きな役割を果たしている。社会教育関係団体の自主的かつ主体的な運営を尊重しつつ、適切な指導・助言を行うとともに、当該団体が計画的に実施する社会教育に関する事業を支援することで、社会教育関係団体の活動の活性化を図る。

本県の社会教育施設には、図書館、博物館、青少年教育施設がある。それぞれの強みを活かして県民の多様なニーズに応える魅力ある施設となるよう、それぞれの特質を生かしながら、人、自然、文化、社会とかがかわる体験活動等が推進されるように努める。県生涯学習センターについては、生涯学習振興の拠点施設として、適切かつ効率的な管理運営を行い、その機能を維持するために必要な施設整備を行うとともに、公益財団法人山形県生涯学習文化財団との連携により、県民の生涯にわたる学習活動を総合的に支援し、地域の活性化を担う人材の育成及び県民の文化の振興を図る。

県及び市町村教育委員会における社会教育の推進を図るため、社会教育の専門的職員である社会教育主事有資格者(社会教育士)を計画的に養成するとともに、社会教育主事有資格教員を地域や学校、家庭の連携・協働を推進する体制づくりの核と位置付け、地域の教育力向上を図る。

社会教育施設が地域住民の社会教育(交流・生涯学習・家庭教育)の拠点となる環境づくりを行えるように、また、社会教育関係担当職員がよりよい生涯学習の場を提供できるように、研修・学習機会を提供するとともに、事業や企画作りに資する資料とするために、成人期・高齢期の学習調査(市町村における社会教育事業等の実施状況調査)を行う。

事業名等	事業の目的・内容	実施主体
<p>成人期・高齢期教育担当者研修事業</p> <p>(学びと協働による地域コミュニティ活性化事業)</p> <p>(助成)</p> <p>県社会教育連絡協議会</p>	<p>●目的 成人期・高齢期における社会教育の現状を調査し、豊かで活力ある地域社会を形成するため、よりよい生涯学習の機会と場を提供できるように検討していく。</p> <p>●内容</p> <p>1 成人期・高齢期の学習の調査(市町村における社会教育事業等の実施状況調査)</p> <p>○対象 市町村公民館等施設</p> <p>○期日 6月中</p> <p>○主な活動 市町村が開催している、成人・高齢者を対象とした講座等の開催場所や内容等を調査する。</p> <p>2 指導者研修会の開催</p> <p>○対象 市町村行政職員・社会教育主事</p> <p>○期日・場所 令和7年2月 場所未定</p> <p>○主な活動 成人期・高齢期における学習活動の今後の在り方についての研修会を開催。(成人期・高齢期教育研修会)</p> <p>3 社会教育関係職員初任者講座</p> <p>○対象 市町村社会教育関係職員、公民館関係職員、コミュニティセンター職員等のうち、経験年数が2年未満の者</p> <p>○期日・場所 5月16日(木) 遊学館 5月17日(金) 庄内総合支庁</p> <p>○主な活動 講義、ワークショップ、職種別分科会をとおして、社会教育を推進するために必要な基礎・基本を学ぶ。</p> <p>4 市町村研修等支援</p> <p>○対象 市町村社会教育関係職員、公民館関係職員、コミュニティセンター職員等</p> <p>○期日・場所 各市町村の計画による</p> <p>○主な活動 各市町村の計画による</p>	<p>生涯教育・学習振興課</p> <p>生涯教育・学習振興課</p> <p>県生涯学習文化財団 (生涯教育・学習振興課共催)</p> <p>県社会教育連絡協議会 生涯教育・学習振興課</p>
<p>社会教育関係団体の支援 (社会教育関係団体事業費補助金)</p> <p>◇S34 年度開始 319千円 (県費)</p>	<p>●目的 社会教育関係団体の健全な運営と活動の活性化を図る。</p> <p>●内容 ※事業費補助金の交付</p> <p>①山形県社会教育連絡協議会事業費補助金(山形県社会教育連絡協議会)</p> <p>②PTA連合会事業費補助金(山形県PTA連合会、山形県特別支援学校PTA連合会)</p> <p>③婦人団体事業費補助金(山形県婦人連盟)</p> <p>④ボーイスカウト事業費補助金(ボーイスカウト山形県連盟)</p>	<p>生涯教育・学習振興課</p>
<p>県立図書館の資料整備</p> <p>25,143千円 (県費、一部国庫)</p>	<p>●目的 県立図書館の資料を整備充実し、県民に対する情報提供機能、学習・調査援助機能の充実・強化を図る。</p> <p>●内容</p> <p>1 図書資料の充実</p> <p>2 視聴覚資料の充実</p> <p>3 障がい者サービスの充実</p> <p>4 電子書籍サービスの提供(新規)</p>	<p>県立図書館</p>

<p>県民が集い・学ぶ 県立図書館活動整備</p> <p>◇H27 年度開始</p> <p>1,775千円 (県費)</p>	<p>●目的 「ときめく」「たよれる」「つながる」「ひろがる」の4つを柱として、「県民が集い・学ぶ 本のまち」を基本コンセプトとする図書館の実現を図る。</p> <p>●内容 1 県立図書館としての役割を踏まえた賑わいの創出 2 県立図書館で実施する協働の賑わいづくり</p>	<p>県立図書館</p>
<p>県立博物館の整備・ 充実</p> <p>35,004千円 (県費)</p>	<p>●目的 文化学術拠点としての博物館機能の強化を図り、地域への愛着や誇りを育むため、魅力ある博物館活動を展開する。</p> <p>●内容 1 プライム企画展の開催 2 学習会・研修会等の実施 3 ボランティアとの協働活動</p>	<p>県立博物館</p>
<p>県青少年教育施設の 整備・充実</p> <p>1,663千円 (県費)</p>	<p>●目的 青少年教育施設の安全性を高め、利用者が安全・安心に活動できる充実した学習の場の提供を行う。</p> <p>●内容 1 飯豊・金峰(本館・分館)少年自然の家の AED 更新 2 少年自然の家の活動用品等購入</p>	<p>県青少年教育施設</p>
<p>県社会教育委員の 会議</p> <p>生涯学習検討委員会</p> <p>297千円 (県費)</p>	<p>《県社会教育委員の会議》</p> <p>●目的 行政と県民のパイプ役・橋渡し役として、教育委員会への意見具申や助言指導などを行い、本県社会教育の充実に資する。</p> <p>●内容 「山形県社会教育委員の会議」開催 ○対 象 県社会教育委員 14 名 ○期 日 5月及び8月</p> <p>《生涯学習検討委員会》</p> <p>●目的 県の生涯学習推進体制の整備に向けて、外部有識者が「山形県生涯学習振興計画」の進捗状況を点検し必要な提言を行う。</p> <p>●内容 「山形県生涯学習検討委員会」の開催 ○対 象 県社会教育委員14名 ○期 日 「山形県社会教育委員の会議」と同日</p>	<p>生涯教育・学習振興課</p>

<p>社会教育主事養成事業</p> <p>◇S56 年度開始</p> <p>(有資格教員研修は H26 年度開始)</p> <p>1,901千円 (県費)</p>	<p>●目的 県の社会教育主事養成のため、東北大学及び国立教育政策研究所社会教育主事講習等への派遣により、社会教育推進体制の充実と、幅広い知識を身につけた教員の養成を図る。 また、学校への社会教育主事有資格者(社会教育士)の配置と、社会教育主事有資格教員のスキルアップを図り、学校・家庭・地域の連携を促進する。</p> <p>●内容 1 社会教育主事講習(R2 より「社会教育士」が付与) ○対象 教育局社会教育関係職員 公立小・中学校、県立高校・特別支援学校教員 ○期日・場所 ①東北大学社会教育主事講習 6月13日(木)(県青年の家) 6月24日(月)～8月6日(火) ②国社研[A] 7月12日(金)～8月29日(水)(社会教育実践研究センター) ③国社研[B] R7.1月14日(金)～2月20日(木)(社会教育実践研究センター他) ○主な活動 社会教育主事講習への派遣</p> <p>2 社会教育主事有資格教員研修 ○対象 公立小・中学校の社会教育主事有資格教員 ○期日・場所 教育事務所ごと実施 ○主な活動 最新の社会教育事情や学社連携のあり方を学ぶ。 パネルディスカッション、グループ討議等</p>	<p>文部科学省 (東北大学) (国立教育政策研究所) 生涯教育・学習振興課</p> <p>教育事務所</p>
<p>生涯学習施設の管理運営及び施設設備等の整備・充実</p> <p>◇H2 年度開始</p> <p>69,819千円 (県費、県債、使用料)</p>	<p>●目的 生涯学習振興の中核施設である山形県生涯学習センター(遊学館、霞城セントラル10階)、センター分館(山形県緑町庭園文化学習施設「洗心庵」)について、効果的かつ効率的な管理運営を行う。 また、施設(遊学館・洗心庵)の機能維持及び安全確保のため、施設・設備等の整備、更新及び修繕等を行う。</p> <p>●内容 1 生涯学習センターの管理運営業務の指定管理料 (指定管理者制度導入 H18 年度～) ・指定管理者:公益財団法人山形県生涯学習文化財団 ・指定の期間:令和2年4月1日～令和7年3月31日 2 生涯学習センターの施設・設備等整備費 ・遊学館冷温水機等の整備更新実施設計 ・遊学館大窓改修工事実施設計 ・洗心庵エアコン更新工事 ・遊学館非常用発電テープヒーター交換工事</p>	<p>生涯教育・学習振興課</p>
<p>生涯学習振興に係る連絡調整</p> <p>◇H25 年度開始</p>	<p>●目的 県の生涯学習推進体制を整備し、生涯学習に関する施策の連絡及び調整を行い、その推進を図る。</p> <p>●内容 ○対象 関係各課 ○主な活動 第5次山形県生涯学習振興計画の進行管理表をとりまとめ、情報共有することにより、関係部局や山形県生涯学習センターが連携し、総合的に施策が展開されるよう努める。</p>	<p>生涯教育・学習振興課</p>

V 令和6年度 県社会教育施設関係事業

(1) 山形県立図書館 ☎990-0041 山形県山形市緑町一丁目2番36号 TEL 023-631-2523(代) FAX 023-625-6520

I 運営方針

「山形県立図書館運営基本プラン2025（令和4年3月策定）」に掲げる『県民一人ひとりの生涯学習の基盤となり、知の集積と循環によって、新たな知恵や活力を生み出し、県民の成長と地域の賑わいに貢献する図書館』を目指し、“ときめく図書館”、“たよれる図書館”、“つながり・ひろがる図書館”の3つの行動指針等に基づき運営する。

II 今年度の施策

1 ときめく図書館 ～学びの意欲を喚起する空間の提供～

(1) 本との出会いを演出し、賑わいの拠点となる空間づくり

- ① 図書館機能を活用し、多様な主体と連携して実施する賑わいの創出
 - ・多様な主体と連携し、民間など外部の視点によるアイデア等を取り入れるための「賑わいづくり企画・実行委員会」の開催（2回）
 - ・年間を通した賑わいを創出するため、季節毎に図書館フェスタを開催（4回）
 - ・継続的な来館を促進するため、テーマ性やストーリー性のある企画展示やイベントの計画的実施
 - ・多様な主体が図書館機能を活用して実施する取組みへの積極的な協力（近隣高校による各種講座や図書館コンサートの開催など）
- ② 知的探究心を刺激し、来館のきっかけとなる企画の実施
 - ・社会情勢・時節を捉えたタイムリーな企画展示をはじめとした、県民と資料等を結ぶ多様な分野の企画展示や講座等の開催
 - ・賑わい創出の取組みと連動した企画展示の実施
 - ・県立図書館を拠点とした集いや学びを県全域へ発信・共有する、オンライン形式やハイブリッド形式による講座・イベントの開催
- ③ リニューアルした図書館の魅力伝える企画展示やイベント等の継続的な開催
 - ・年間を通した賑わいを創出するため、季節毎に図書館フェスタを開催（再掲）
 - ・外部サイト（やまがた子育て応援サイト、親子お出かけ情報サイト「いこ～よ」など）の活用による子どもとその家族をターゲットとした利用情報・イベント情報の発信
 - ・「本の森通信」の発行（2回）
 - ・ラジオモンスター「ママクラブ」での情報発信
- ④ 遊学館内の施設や近接する施設との連携による生涯学習の拠点機能の充実
 - ・県生涯学習センターをはじめ、生涯学習の複合施設に所在する利点やカフェレストランが入居する特徴を活かした企画展示やイベント、情報発信の充実（チェリアフェスティバル（10月上旬）やレストランイルブルと連携した企画展示等）
 - ・「歴史文化ゾーン」を構成する文翔館、洗心庵及び教育資料館等と連携したエリアとしての賑わいづくりの推進（4施設合同企画展示等）
 - ・他の文化施設やイベントとの連携による回遊・来館の促進（「やまがた文化の回廊フェスティバル」への参加など）
- ⑤ 縣人文庫の展示の充実
 - ・テーマ設定による常設展示内容の展示替え
 - ・常設展示22人以外で、時宜に合わせて活躍した県人の企画展示を実施（これまでの実績：日塔貞子(R2)、錦三郎(R3～R4)など）
- ⑥ 県立図書館職員の専門性と接遇力の向上
 - ・図書館業務に関する専門性の向上やデジタル化、情報発信力の向上等の課題への対応に向けた、外部研修等への参加促進及び館内研修の開催

(2) 乳幼児から高齢者まで生涯にわたり利用できる図書館づくり

- ① 乳幼児期からの利用促進と読育の推進
 - ・こどもエリアにおけるテーマを設定した展示の実施（年6回）
 - ・「紙芝居のひろば」（毎月第三土曜日）や「おはなし会」（毎月第四日曜日）など毎月定例的な読み聞かせ会の実施
 - ・子ども読書週間における企画展や関連行事「絵本とうたの会」の開催（4～6月、絵本の展示、山形西高の合唱など）
 - ・県国際交流協会と連携した交流員による外国絵本等の読み聞かせ会の開催（年4回）
 - ・村山教育事務所等と連携した読育関連イベントの実施（10～12月） ・ 絵本作りを体験するイベントの開催（7月）
- ② 児童・生徒の利用促進
 - ・ティーンズコーナーにおけるお薦め本の紹介展示（通年） ・ 高校図書委員会との連携によるお薦め図書と手作りPOPの併設展示
 - ・夏休み特集の展示（7・8月、自由研究・工作、読書感想文関連） ・ 「GATE☆BOOK」の発行
- ③ ビジネス及びリカレント等の支援
 - ・担当司書企画によるミニ展示の実施（ビジネスマナーなど） ・ 県担当課・中小企業関連機関との連携展示の実施
- ④ 県民の読書活動の推進
 - ・子ども読書週間における企画展や関連行事「絵本とうたの会」の開催【再掲】（4～6月、絵本の展示、山形西高の合唱など）
 - ・秋の読書週間に合わせ、「県内出版物展」の開催（10・11月）
- ⑤ ユニバーサルデザインの視点に立ち、快適かつ安全安心に利用できるサービスの推進
 - ・新型コロナ等の感染拡大のフェーズ・危険度に合わせた感染防止対策を実施
 - ・「遊学館」防災訓練の実施（2回実施、火災・地震を想定） ・ 対面朗読サービスの利用促進とサピエ図書館への継続加盟

2 たよれる図書館 ～県民を支える資料の収集・活用と県内図書館との連携強化～

(1) 県民の暮らしや課題解決、調査研究を支援する蔵書づくり

- ① 「山形県に関する資料は県立図書館にある」ことを目指した郷土に関する資料の収集・保存とその効果的な活用
 - ・県立図書館資料収集方針に基づく資料の選定・収集・保存
 - 行政資料から民間出版物まで本県に関わる郷土資料の網羅的収集
 - 県人・県関係者の著作の積極的収集
 - ・郷土資料・行政資料の効果的な収集のため、新聞・雑誌等を活用した情報収集を行い、県内の学校や企業等に対し積極的な提供を依頼
 - ・郷土愛の育成に向け、豊かな自然、山形ならではの歴史や文化、特色ある産業など、本県の魅力を伝える図書資料の積極的な収集と企画展示等への活用
 - ・探究型学習をはじめ学校の教育や活動で活用可能な蔵書や電子資料等の充実と教員が参集する会議や学校訪問等を通じた利用の周知
 - ・パスファインダーの充実（52項目⇒55項目）
- ② 全世代の県民の学びと希望の実現を支援する資料の充実
 - ・県立図書館資料収集方針に基づく資料の選定・収集・保存（再掲）
 - 市町村立図書館での収集が困難な高額資料、専門書、参考資料等の収集
 - 県民の生涯学習や調査研究など課題解決のための資料収集
 - 県の施策に即した事業や社会的関心の高い分野に関する資料収集
 - リニューアルで新設・拡充したエリアの機能発揮に資する資料を積極的に収集
 - 活字による読書が困難な方へのサービス向上のためのデジター図書、Lレブック、大活字本等の整備
 - ・資料の持続的な整備充実に向け、不要となった資料の除籍の着実な実施
 - ・策定から20年が経過した資料収集方針について、資料のデジタル化等に対応した見直しを実施
- ③ 身近な課題の解決を支援する資料とレファレンス（調査相談）の充実
 - ・迅速な課題解決・回答に向けた採録項目・内容の充実 ・ ホームページ上の文献目録の充実

- ・調査依頼から回答まで原則2週間以内での回答など迅速な対応によるサービスの充実
- ・図書館資料公衆送信サービス開始に向けた検討
- ④ 安全安心に役立つ資料の収集保存と活用
 - ・今後の教訓となる大規模災害の記録、県民の防災意識の向上や防災力の強化、災害対応に役立つ資料の積極的収集と企画展示等での活用
- ⑤ 県内地方公共団体の政策決定や行政事務に必要な資料・情報の収集と提供
 - ・県の施策に即した事業や社会的関心の高い分野に関する資料収集（再掲）
- (2) 県内図書館全体のサービス充実に向けた県立図書館の役割の発揮
 - ① 県立図書館の特性や役割を踏まえた県内図書館への支援の充実
 - ・利用カードを持たない方でも県立所蔵の資料を借りられる「相互貸借」の周知強化
 - ・市町村立図書館(室)との間で現状や課題、情報の共有とネットワークの強化を図るため、実務者会議を開催するとともに、巡回訪問を計画的に実施
 - ・高等学校図書館、大学図書館の現状や課題の把握、情報共有等を目的とした巡回訪問の実施
 - ・各市町村・各校のニーズや課題に応じた、一括特別貸出及びセット貸出の利用推奨、セット貸出資料の内容見直し
 - ・県内公共図書館が連携して新聞・雑誌を収集保存するための情報提供
 - ・市町村立図書館(室)と連携した「移動図書館」の実施
 - ・学校図書館のニーズを踏まえた「移動図書館」の実施
 - ② 県内図書館を支える職員等の研修の充実
 - ・「第44回山形県図書館研究大会」の開催（最上地域）
 - ・受講者ニーズを踏まえた専門性の高い図書館職員専門研修の実施（3回）及び高等学校図書館、大学図書館への参加の呼びかけ（県図書館協会）
 - ・学校教育研究会図書館部会等と連携した研修会への協力
 - ③ 県内図書館との連携による重層的な図書館サービスの充実
 - ・市町村立図書館(室)の現状や課題の把握、情報共有等を目的とした実務者会議の開催と、巡回訪問の計画的な実施等による人的ネットワークの強化（再掲）
 - ・県内図書館との連携による「山形県図書館大賞2024」の実施
 - ④ ウェブ会議システム等の活用による新たな連携の推進
 - ・オンライン形式やハイブリッド形式による講座・イベントの開催（再掲）
 - ・図書館職員専門研修のオンライン形式又はハイブリッド形式による実施
 - ⑤ 県外図書館等とのネットワークの推進
 - ・北日本図書館連盟大会（6月20日・21日、青森市）、同研究協議会（12月中旬頃、仙台市）への参加
 - ・全国公共図書館協議会定期総会、国立国会図書館長との懇談会への参加、日本図書館協会主催全国図書館大会（11月30日・12月1日、長崎市）、全国公共図書館研究集会への参加

3 つながり・ひろがる図書館～デジタル化と連携協働によるサービスの充実～

- (1) インターネットを活用した利便性の向上とデジタル化の推進
 - ① アクティブラーニングルームを活用した情報発信の強化
 - ・県立図書館を拠点とした集いや学びを県全域へ発信・共有するための、オンライン形式やハイブリッド形式による講座・イベントの開催（再掲）
 - ・県民の生涯学習の成果発表の場としての活用など、外部による利用促進に向けた広報の実施
 - ② インターネットによる情報発信の更なる強化
 - ・ホームページやSNS（X、Instagram等）の積極的な更新・投稿の実施
 - ・ターゲットに応じ、外部サイト（例：やまがた子育て応援サイト）を効果的に活用した広報の実施
 - ・県立図書館で実施する各種講座等のアーカイブ化及び動画配信の実施
 - ③ 非来館型サービスの周知広報と利便性向上
 - ・県内各地における「移動図書館」の実施による利用者登録の促進及びインターネット予約貸出サービスの周知強化
 - ・ラッピングブックと合わせた宅配無料キャンペーンによる図書宅配サービスの利用促進（12月頃）
 - ・WEB利用者登録申請の推進
 - ④ 貴重資料等のデジタル化による長期保存対策と利活用の推進
 - ・「デジタルライブラリー」の活用を促進するための学校への周知・啓発と、貴重資料の更なるデジタル化の検討
 - ・長期保存を行う磁気テープ資料の選定と予算確保のための調整【新規】
 - ・優先的にデジタル化を行うマイクロフィルムの選定と予算確保のための調整【新規】
 - ⑤ オンラインデータベースの活用の推進
 - ・オンラインデータベース活用講座の開催
 - ⑥ レファレンスデータベースの充実
 - ・国立国会図書館レファレンス協同データベースへの積極的な事例登録及び活用
 - ⑦ 電子書籍サービスの検討
 - ・電子書籍サービスの実施（8月）【新規】
 - ・電子書籍サービスの体験イベントの開催【新規】
 - ・PDFなど電子データでのみ発行されている刊行物等の収集・保存・利用の仕組みづくり
- (2) 連携・協働によるサービスの充実
 - ① 県民や団体等との連携・協働によるサービスの充実
 - ・図書館ボランティアの活動分野を拡大した運営協力サポーター制度（仮称）の実施【新規】
 - ・県民の読書推進に向け連携強化を図るための公共図書館と地域の書店との意見交換会の実施【新規】
 - ② 協働による賑わいづくりを推進するネットワークづくり
 - ・多様な主体と連携し、民間など外部の視点によるアイデア等を取り入れるための「賑わいづくり企画・実行委員会」の開催（再掲）
 - ・図書館で活動する団体との意見交換会等の実施（再掲）
 - ③ 次代に引き継ぐ資料の積極的な寄贈受入れ
 - ・郷土資料・行政資料の効果的な収集のため、新聞・雑誌等を活用した情報収集を行い、県内の学校や企業等に対し積極的な提供を依頼（再掲）
 - ④ ふるさと納税制度や雑誌スポンサー制度を活用した図書館機能の充実
 - ・SNSやホームページ、オンラインイベント等を活用したふるさと納税の働きかけ
 - ・雑誌スポンサー制度の周知広報と継続・拡大の働きかけの実施
 - ⑤ 県民のニーズや意見をくみ取る広聴と施設運営
 - ・県民のアイデアや企画、希望等を企画展示やイベント等に反映させるため、来館者に対するアンケート及びWEBによるオンライン方式によるアンケートを実施（6月）
 - ・アンケート結果概要及びフォローアップ状況の公表

(2) 山形県立博物館

〒990-0826 山形市霞城町1番8号

TEL 023-645-1111 FAX 023-645-1112

1 めざす博物館像

創り、分かち合い、伝える博物館

2 運営方針

- (1) 魅力的な展示、企画づくり (2) 資料の調査・研究及び整理・保存 (3) 社会教育、大学等との連携、支援
(4) 学校教育との連携、支援 (5) 積極的な情報発信、広報活動の展開

3 重点事項

- (1) 特別展及び企画展、教育普及活動を充実させ、来館者の満足度を向上させる。
(2) デジタル技術を活用することにより、博物館の機能を強化する。
(3) 収蔵資料の整理を行い、データベースの更新を行う。
(4) 積極的に情報を発信するなど広報活動を充実させ、来館者数の増加につなげる。
(5) 学芸員の資質・能力の向上に取り組む。

4 事業計画 (参加人数等は、状況により変更になる可能性あり)

(1) 展示会

- ① 特別展 「海に入るまで濁らざりけり - 『母なる川』最上川-」
：令和6年6月1日(土)～8月18日(日)
② プライム企画展 「東北の自然史大図鑑 - The Great Natural History of Tohoku -」
：令和6年9月28日(土)～12月15日(日)

(2) 教育普及事業

① 講座・教室等

- ア 博物館講座 : 一般成人対象(20名程度)
6月8日(土)、7月20日(土)、9月14日(土)、10月19日(土)、12月14日(土)、1月18日(土)、2月22日(土)
イ 古文書講座(入門編) : 一般成人対象(20名程度)
5月15日(水)、6月12日(水)、7月10日(水)、9月11日(水)、10月9日(水)
ウ 古文書講座(応用編) : 一般成人対象(20名程度)
5月17日(金)、6月14日(金)、7月12日(金)、9月13日(金)、10月11日(金)、11月8日(金)
エ 自然学習会 : 小学生とその保護者対象(28名程度)
7月27日(土) 朝日少年自然の家

② イベント

- ア 博物館無料開館日
・こどもの日 : 5月5日(日・祝)
・国際博物館の日 : 5月18日(土)
・東北文化の日 : 10月26日(土)
10月27日(日)
・文化の日 : 11月3日(日・祝)
・成人の日 : 1月13日(月・祝)
イ ナイトミュージアム : 10月26日(土)
ウ 教育資料館無料開館日 : 11月9日(土) やまがた教育の日

③ その他

- ア 特別展記念講演会 6月22日(土)、7月27日(土)
- イ 特別展記念イベント 8月4日(日)
- イ プライム企画展記念講演会 10月上旬、11月上旬、11月下旬
- ウ プライム企画展記念イベント 10月27日(日)、11月3日(日・祝)、12月7日(土)
- エ 国宝「縄文の女神」解説会
5月5日(日・祝)、6月23日(日)、8月11日(日・祝)、11月3日(日・祝)、12月15日(日)、1月13日(月・祝)
- オ 展示解説会
 - ・特別展「海に入るまで濁らざりけり - 『母なる川』最上川-」
6月1日(土)、7月6日(土)、8月3日(土)
 - ・プライム企画展「東北の自然史大図鑑 -The Great Natural History of Tohoku-」
9月28日(土)、10月14日(月・祝)、10月26日(土)、11月3日(日・祝)、11月16日(土)、12月7日(土)

(3) 共催事業

- ① 高校生学芸員一日体験講座
- ② 連続公開講座(東北芸術工科大学)
- ③ 友の会講演会
- ④ 友の会現地で学ぶ講座
- ⑤ 友の会企画展(私のイッピン展)

(4) 博物館情報の発信

- ① 令和6年度館報
- ② 企画展刊行物
- ③ 研究報告
- ④ 博物館ニュース
- ⑤ 博物館ホームページ
- ⑥ 展示・催物案内
- ⑦ 各事業案内チラシ
- ⑧ その他の広報(SNS他)

(5) 博学連携

- ① 高校生学芸員一日体験講座(定員各日程25名程度)
人文系:8月1日(木)、自然系:8月2日(金)、総合:8月7日(水)
- ② 大学生博物館実習(定員12名):8月17日(土)~8月23日(金)
- ③ 出張博物館(小学生等を対象とした学校に出向いての授業等支援:随時)
- ④ 職場体験学習の受入れ(小中高生対象:随時)
- ⑤ その他(学校や社会教育機関が実施する学習・講座・研修・体験への講師派遣:随時)

(6) 山形県立博物館ボランティアとの協力連携

(7) 山形県立博物館友の会との協力連携

(8) 調査研究

- ① 特別展、企画展に向けた調査研究
- ② 時代に即した解説シートの検討と作成
- ③ 魅力ある教育普及事業の開発
- ④ 常設展示の展示内容の検討
- ⑤ 資料・標本の価値を高めるための研究
- ⑥ 寄贈資料・標本についての調査・整理
- ⑦ 新博物館建設に向けた調査(情報収集)

(3) 山形県青年の家

〒994-0032 天童市小路1丁目7番8号

TEL 023-654-4545 FAX 023-652-2007

I 基本理念 人と人とのつながりに青少年の学びを創出する。

II 教育目標

多様な活動や交流をとおして持続可能な社会づくりへの参画を促し、自立と共助の精神に満ちた青少年を育成する。

III 運営方針

- 1 人や社会との関わりにつながる多様な交流・体験活動の機会や情報の提供を通じて、地域社会への主体的な参画を促し、青少年の社会力の育成に努める。
- 2 学校及び関係機関・団体との連携を通じて、社会教育と学校教育をつなぎ、次代を担う人づくりに努める。
- 3 安全・安心な施設管理とコミュニケーションを重視した心の通う施設運営を通じて、豊かな人間関係づくりを支援し、青少年の健全育成に努める。

IV 運営の重点

- 1 研修プログラムの開発・提供（主催事業）
 - (1) 青少年ボランティアの育成・支援に係る研修
 - ① 青少年ボランティア活動及び指導者への支援の充実
 - ② 青少年の社会貢献に係る興味関心を学びと実践につなげる研修の提供
 - ③ ボランティアサークル「nicoこえ」の活動充実
 - ④ 出前講座の提供拡大
 - (2) 青少年による地域活動の支援に係る研修
 - ① 地域のよさや課題を捉え、地域の人との協働につながる研修の提供
 - ② SDGs を体験的に学ぶ機会の提供
 - ③ 未来を守る青少年防災フォーラムの開催
 - (3) 青少年に関わる現代的課題への対応に係る研修
 - ① 特別な事情を有する青少年の自立支援に資する体験機会の提供
 - ② 子どもと一緒に参加でき親子に笑顔が生まれる家庭教育支援研修の提供
(新規事業：「青年の家 de 寺子屋」の充実)
 - ③ スポーツやアートなど多様な研修プログラムの開発・提供
- 2 地域青少年ボランティア活動推進事業（主管事業）
 - (1) 中高生の心に届ける「夏の体験ボランティア」キャンペーンの展開
 - (2) 学校・市町村・関係団体等への支援に資する情報収集と提供
- 3 次世代の地域づくり中核人材育成事業
*「地域をつくるリーダーセミナー」と兼ねる
- 4 関係機関・団体等との協働の推進
 - (1) 研修プログラムの質の向上に資する多様で新しい関係者との協働の推進
- 5 青少年のICT環境に対応した広報の推進
 - (1) 青少年に「伝わる」「つながる」ことを重視した広報の充実
- 6 施設の有効利用と安全管理
 - (1) 県民の多様なニーズに応えられる施設運営と広報
 - (2) 定期的な施設・設備の安全点検による事故防止
 - (3) 熱中症を含む防災・防犯に資する安全管理マニュアル点検改善と各種訓練の実施
- 7 次年度以降の業務充実に向けた取組み
 - (1) 社会の変化に対応した機能強化
 - ① 新たな青少年に関わる現代的課題の研究（ヤングケアラー・不登校児童生徒等）
 - ② 「nicoこえ」の成果のYYボランティアサークルへの拡大

令和6年度 山形県青年の家 事業一覧

区分	事業名	事業のねらい	事業内容	期 日	要項掲載	募集期間	対 象	人 数		
青少年ボランティアの育成・支援	青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」運営	サークル会員の主体性を重視した多様な活動や交流機会を支援する。本所のネットワークをサークル活動に活用し、YYボランティアサークルのロールモデルとする。	サークルミーティング 地域貢献活動 小児がん支援 子育て支援 サークル同士の交流 SNSで情報発信		通年		中学生 高校生 大学生 短大生 専門学校生等	30		
	出前講座	学校やボランティアサークル等へのアイスブレイキングを実施し、良好な集団づくりを支援する。ボランティア講座を実施し、ボランティアの重要性・意義を啓発し、活動を活性化させる。	アイスブレイキングによる集団づくり支援 ボランティア講座		通年		中学校 高校 その他団体			
	ボランティア指導者研修会	指導者としての資質及び専門的な知識・技術を高める。ボランティア活動支援に係る情報を共有し、連絡協力の促進を図る。	ボランティア活性化策 交流と情報交換 グループワーク	5/24 (金)	4/15 (月)	4/16 (火) ~5/10 (金)	指導者 担当者 一般県民	30		
	青少年ボランティアセミナー	ボランティア活動のネットワークをつくる。ボランティア活動の意欲・知識・技術を高める。	参加者同士の交流 情報交換 活動スキルアップ グループワーク	9/29 (日)	7/8 (月)	7/16 (火) ~9/13 (金)	中学生 高校生 大学生 担当者	30		
	地域青少年ボランティア活動推進事業	山形県地域青少年ボランティア推進会議	県内各地区の実践、活動、事業に関する情報を交換し、県内の地域青少年ボランティア活動の推進に向けた諸施策等について協議する。	県推進会議(5月、3月) 県内4地区推進会議(年2回)		①県推進会議5/8(水) 各地区推進会議5月~6月 各地区推進会議2月~3月 ②県推進会議2/26(水)		有識者 学校関係者 指導者	20	
		YYボランティアアビューロー	HPの管理・運営	中学生・高校生・大学生にYYボランティアサークル等の情報を提供する。一般県民のYYボランティア認知度向上を図る。	YYボランティア情報の収集と発信 ホームページの充実 各サークル活動内容紹介		通年 (http://seinen.jp)		一般県民	
			YYボランティアサークル支援	YYボランティアサークルの活動の後方支援や周知キャンペーンを行い、県全体の活動の活性化を促進する。また、出前講座を通してボランティアの推進を図る。青少年地域活動団体名簿を作成し、ボランティア活動を必要としている団体などへの情報提供や青少年地域活動団体間の連携を推進する。	相談・コーディネート業務 サークル訪問、活動取材、活動支援、出前講座 YYボランティア周知キャンペーン・新規入会者促進 青少年地域活動団体名簿作成		通年		サークル会員、市町村社会教育担当者等	
			夏の体験ボランティアキャンペーン	体験ボランティア企画を中高生に紹介し、ボランティア活動を始めるきっかけづくりをする。	夏季休業期間等に実施するボランティアの企画を募集。地区別リーフレットを作成し、学校に配布。	実施期間 7/13(土)~9/23(月)	7月上旬 学校を通じて配布	各企画へ各自申込	中高生	
			高校3年生のボランティア活動実態調査	高校3年生に高校在学中のボランティア活動の実態を調査し、地域青少年ボランティア活動推進における資料とする。	全日制高校3年生全員への質問紙法によるアンケート調査	実施期間 夏休み後~9/13(金)	7月上旬 高校へ配布		高校生	
	青少年による地域活動の支援	未来を守る青少年防災フォーラム	地域社会の防災・減災に主体的に行動できるように意識、知識・技術を高める。	防災・減災学習 話し合い、学び合い、共有 若者からのメッセージ 防災グッズの体験	9/15 (日)	7/1 (月)	7/8 (月) ~9/2 (金)	中学生 高校生 大学生 一般県民	40	
地域をつくるリーダーセミナー		高校生が地域づくり活動に目を向け、地域の良さを再認識し、地域の魅力を発信していただけるような次世代のリーダーに期待される資質能力を育成するとともに、県内各高校生同士の相互交流及びネットワーク形成を図る。	各学校の地域活動の紹介 地域で活動している青年リーダーとの交流 地域活動に関するグループワーク	12/8 (日) 庄内 12/15 (日) 内陸	10/15 (火)	10/16 (水) ~11/22 (金)	高校生 生徒会等のリーダー 担当者	40		
持続可能な社会づくり体験1「SDGs×スポGOMI」		SDGsに係る体験活動を通し、SDGsを理解し、SDGsに貢献できる協働力を身に付ける。	SDGsと地域環境の学習 舞鶴山でのスポーツ形式のゴミ拾い	6/16 (日)	5/7 (火)	5/8 (水) ~6/7 (金)	中学生 高校生 大学生 一般県民	30		
持続可能な社会づくり体験2「SDGs×地域文化」			SDGsと地域文化の学習 地域文化の継承に係る活動実践体験	1/26 (日)	12/2 (月)	12/3 (火) ~1/10 (金)	中学生 高校生 大学生 一般県民	30		
次世代の地域づくり中核人材育成事業			※ 「地域をつくるリーダーセミナー」と兼ねる							
青少年に関わる現代的課題への対応		若者自立支援体験活動1「スポーツでわいわい」	楽しみながら他の施設の人と交流する。心身のリフレッシュを図る。社会参加に踏み出すことへの一助にする。	軽スポーツと交流	6/5 (水)	4/26 (金)	4/30 (火) ~5/21 (火)	県内のひきこもりがちな青年支援者	30	
	若者自立支援体験活動2「アートでわいわい」		アート作品の作製と交流	10/16 (水)	8/30 (金)	9/2 (月) ~10/4 (金)	県内のひきこもりがちな青年支援者	30		
	家庭教育支援事業1「スポーツ de SDGs」	スポーツを通して、親子で共に学び、体験を通し育ち合う。	SDGsの視点を取り入れた親子での軽スポーツ・ユニバーサルスポーツ体験	7/7 (日)	5/13 (月)	5/14 (火) ~6/21 (金)	児童と保護者	20		
	家庭教育支援事業2「青年の家 de 寺子屋」	夏休み中の学習サポートを通して学習習慣を醸成し、家庭教育支援を行う。	小学生対象の学習支援 小学生の子を持つ家庭の教育支援	8/8 (木) 8/9 (金)	6/17 (月)	6/18 (火) ~7/19 (金)	小学生	20		
	家庭教育支援事業3「アート de SDGs」	芸術活動を通して、親子で共に学び、体験を通し育ち合う。	SDGsの視点を取り入れた親子での芸術活動	11/17 (日)	9/24 (火)	9/25 (水) ~10/28 (月)	児童と保護者	20		

(4) 山形県朝日少年自然の家

〒990-1101 西村山郡大江町大字左沢字楯山 2523-5

TEL 0237-62-4125 FAX 0237-62-4126

1 基本テーマ 『光と水と大地の中で』～木々のみどり・風のささやき・水の鼓動～

2 教育目標 豊かな自然の中で、野外活動や集団活動等を通し、社会力を育み、心身共に健全でたくましく生きる人間の育成に努める

- (1) 自然の厳しさや優しさに触れ、自然を大切にする心を育てる。
- (2) 集団生活を通して、自らを律し仲間を思いやる心を養う。
- (3) 自然の中で心身を鍛え、主体的に実践・創造する態度を養う。

3 活動スローガン 『体験』『発見』、そして、笑顔と感動の森「朝少」

4 運営方針 ～ 価値ある体験を通して社会性を身に付け、自己実現できるように支援する ～

- (1) 青少年教育施設としての機能充実を図る。
- (2) 生涯学習の拠点（幅広い年齢層が利用する社会教育施設）としての機能充実を図る。
- (3) 官民協働体制のもとでサービスの向上を図る。（利用者の笑顔、満足度、安心・安全）
- (4) 地域資源（ヒト・モノ）を活用し、学びに広がりをもたせ、地域に対する愛着を高める。

5 運営の重点 ～ 50年間変わらない、利用者の素敵な笑顔のために ～

(1) 社会教育施設としての運営基本の再確認

①ねらいが明確で教育的に価値付けした事業の企画運営【プログラム開発と指導力向上】

- ・「知的好奇心～実体験～振り返り～確かな自信～新たな課題」という深い学び
- ・利用団体指導者のスキルアップに向けたプログラム開発

②朝少の利点を活かした「今日的課題」に対応した活動の充実【企画事業等のプログラム開発】

- ・朝少の利点：交通アクセス、本所を含めた西村山全体の豊かな自然（光・水・大地）
- ・今日的課題：自然・社会体験不足、親子感動共有不足、人間関係をつくる力の低下
- ・事業を通して、正しい知識・技能を身に付け、安全な体験活動の推進

③子どもの育ちや利用者の主体性を第一義とする職員の支援体制

- ・利用団体のねらい実現に向けたアドバイス、利用者の主体性・協働性を促すサポート
- ・子どもの育ちに係る利用団体指導者の立ち位置や意識に対するアドバイスと資料整備（動画含む）
- ・職員（研修担当・施設管理担当）のスキルアップ

(2) 積極的な広報活動の展開

①広報の工夫

- ・HPやSNSの利活用、報道機関との連携、朝少キャラクターの活用
- ・所報「朝日の山並み」等を活用し、積極的な学校等への提案
- ・「山形から体験の風をおこそう」運動事業の活用

(3) 本施設を支える人材の育成

①ボランティア活動実践提供と人財育成の場

- ・企画事業に対する高校生・大学生サポーターの募集拡大と地元高校生ボランティアの育成
- ・大学の社会教育施設実習と教員の研修を活用したサポーターの養成

(4) 利用者が笑顔になる温かな施設運営

①利用者の信頼が得られる施設づくり

- ・相手の思いを傾聴する接遇及び利用団体とのプログラム事前調整や当日の詳細な打合せ
- ・利便性の向上に向けた電子申請等の活用

②開所50周年に感謝し、周囲から愛される施設づくり

- ・関係機関と連携し、地元とのかかわりを大切にしたプログラム開発

③外部の声に反応する施設づくり

- ・利用者アンケート（生の声）を反映した目に見える対応
- ・運営懇談会（関係機関代表）による意見交流と改善策の検討

④安心・安全・安定した施設づくり

- ・日常的な危機管理意識の醸成と全職員の情報共有、組織的な対応
- ・施設・設備・遊具等の定期的な安全点検と衛生保持
- ・全ての利用者が安心・安全に利用できるための職員間の情報共有

◆◆◆ 本施設スタッフのスローガン ◆◆◆

『利用者の笑顔や満足度』はすべて「職員の笑顔」からはじまる

令和6年度 山形県朝日少年自然の家 事業一覧

分類	事業名	事業の主なねらい	事業内容	期日	対象	定員
ふれあい・体験推進事業	朝日わくわく広場① 段ボールオープンでピザを焼こう！	家族で段ボールを使ったピザ窯を作ったり、粉からこねてピザ生地を作ったり、トッピングをして焼いて食べたりする活動を通して、家族の交流を深める。	・段ボールでピザ窯作り ・ピザ作り ・ピザ焼き 等	5月18日(土)	子どものいる家族 ※子どもの年齢制限なし	20家族
	創立50周年記念事業 朝少チャレンジフェスタ 2024	朝少ならではのクラフトや野外活動等を通して、体験することの楽しさ、人との交流の素晴らしさを味わえるようにする。	・クラフト体験 ・野外活動体験 ・ワークショップ 等	9月29日(日)	どなたでも参加可能 ※幼児・低学年は保護者同伴で参加	100名
	朝日わくわく広場⑥ クリスマスリースと門松作り	昔から伝わる門松やクリスマスリースを作ることで、家族で行事を楽しく迎えようとする思いを高める。	・クリスマスリース作り ・門松作り 等 ※どちらかを選択	12月7日(土)	幼児～中3の子どもの保護者 ※幼児・低学年は保護者同伴で参加	リース 門松 各30作品
	朝日わくわく広場⑦ チューブすべりとアイスクリーム作り	冬季限定のスノーチューブ滑りやアイスクリームづくりを通して、親子のふれあいや参加者同士の交流を深める。	・スノーチューブ滑り ・アイスクリーム作り 等	1月18日(土)	幼児～中3の子どもの保護者 ※幼児・低学年は保護者同伴で参加	80名
子育て支援事業	朝日わくわく広場② 家族でやってみよう！ DAY CAMP！	家族でデイキャンプ体験を通して、自然の素晴らしさを感じ、親子の交流を深める。	・野外炊飯 ・野外活動 等	6月15日(土)	子どものいる家族 ※子どもの年齢制限なし	16家族
	朝日わくわく広場④ 親子キャンプ ～水の巻～	水遊びや自分で捕った魚を調理する体験を通して、水を使った活動の楽しさを味わうとともに、親子の交流を深める。	・水に関する体験 ・魚つかみ体験 等	9月7日(土)～8日(日) 【1泊2日】	年中児～小4の親子 ※保護者同伴限定	16家族
	朝日わくわく広場⑧ 親子キャンプ ～冬遊びの巻～	スノーチューブ滑りなど冬ならではの遊びを通して、雪で遊ぶ楽しさを満喫するとともに、親子の交流を深める。	・雪遊び ・スノーチューブ滑り ・炊飯活動 等	2月8日(土)～9日(日) 【1泊2日】	年中児～小4の親子 ※保護者同伴限定	16家族
子どもの自立を促す体験事業	朝日わくわく広場③ ドキドキ アドベンチャー キャンプ	野外活動や同年齢の仲間との交流を通して、感性を高め、自主性や協調性を育む。	・川遊び ・魚つかみ、魚さばき ・野外炊飯 等	7月6日(土)～7日(日) 【1泊2日】	小3・小4の児童	30名
	チャレンジキャンプ2024	大自然の中で、長期にわたって仲間と野外体験に取り組む活動を通して、たくましく生きる力を育む。また、子どもたちの主体性を引き出し、くらしに生きる実践力を養う。	・月山登山 ・月山志津キャンプ ・手作りいかだ体験 ・野外炊飯 ・テント泊 等	8月6日(火)～11日(日) 【5泊6日】	小5～中3の子ども	30名
広域連携事業	朝日わくわく広場⑤ ヤマガタダイカイギュウと化石掘り	山形県立博物館と連携し、県の化石「ヤマガタダイカイギュウ」が発見された場所を見学したり、実際に化石掘りをして、地球の歴史に対する関心を高める。	・ヤマガタダイカイギュウ発掘現場視察 ・地層のでき方、観察 ・化石発掘体験 等	10月19日(土)	小1～中3の子ども ※保護者同伴可 ※小1～小3は保護者同伴限定	①②とも 各40名
	朝日わくわく広場⑨ 積雪5メートルの世界で 思いっきり遊ぼう！	月山のブナの森をスノーシューで散策したり、雪遊びをしたりする活動を通して、大自然の雄大さを体感し、自然を愛する心を養う。	・月山ブナ森散策 ・雪山遊び 等	3月8日(土)	小3～中3の子ども ※保護者同伴可	20名
一般開放事業	プラネタリウム一般公開 春・夏の星空めぐり	プラネタリウムでの四季の星空めぐりを通して、星や星座への関心を高める。	・季節の星座上映 ・星座に関する特集上映 ・星空観望会 ・バックヤード体験 ・楽器の生演奏 等	①②6月1日(土) ③6月2日(日) (計3回上映)	幼児～一般成人	各回60名
	プラネタリウム一般公開 秋・冬の星空めぐり		①②11月23日(土) ③11月24日(日) (計3回上映)	各回60名		
	チューブ滑り一般開放	ゲレンデを開放し、冬の雪遊びの楽しさを存分に味わえるようにする。	・スノーチューブ滑り	1月中旬から2月までの 事業等のない土・日曜日	どなたでも参加可能	午前・午後 ともに50名
指導者育成事業	利用団体指導者セミナー	自然の家を有効に活用し、活動のねらいを達成できるように、利用の仕方や活動のポイントの理解を図る。	・選択実技研修 ・施設利用の仕方 ・プログラム検討 等	学校・幼稚園等 ①4/23(火) ②4/25(木) ④9/11(水) 社会教育団体等 ③5/25(土) ⑤9/14(土)	利用団体指導者 ※④のみ 教員フォローアップ研修・ステージアップ研修対象	
	実技研修会 (テント設営・自然の冒険・古代人の火起こし)	安全で充実した活動にするために、指導上や安全確保上の留意点について、指導者自身が実際に体験を通して研修する。	・実技研修 ・ワークショップ 等	テント設営 ①5/15(水) ②5/31(金) 自然の冒険 ①5/17(金) ②6/7(金) 古代人の火起こし ①5/24(金) ②6/21(金)	利用団体指導者 ※教員フォローアップ研修・ステージアップ研修対象	
	サポーターの集い	自然の家のボランティアの活動を理解し、子どもとの関わり方等についての学習を通して、リーダーとして活動できるようにする。	・アイスブレイキング ・講話 ・実技研修 等	4月27日(土)	高校生～成人	30名
	サポーター研修会	本番のキャンプを想定した実技研修を通して、施設ボランティアとしての資質向上を図る。	・実技研修(事前踏査) ・ワークショップ 等	7月20日(土)	高校生～成人	20名
自主事業・自主企画	ヤマコー自主事業 朝少の秋 THE いもパ ～焼きいもパーティー～	森の中で落ち葉を使った「焼き芋」体験活動を通して、秋を満喫するとともに、自然の中で活動する楽しさを味わえるようにする。	・焼き芋体験 等	10月26日(土)	幼児～小4の家族	30家族
	ヤマコー自主事業 大人のクリスマスリース作り	自然の家の周りにある自然材を活用したクリスマスリース作りを通して、ものづくりの楽しさを味わえるようにする。	・クリスマスリース作り 等	12月8日(日)	一般成人	30名
	ヤマコー自主事業 朝少の冬 THE ファイナル	スノーチューブ滑りやアイスクリーム作りを通して、雪遊びの楽しさや仲間と共に活動する喜びを味わえるようにする。	・スノーチューブ滑り ・アイスクリーム作り 等	2月22日(土)	幼児～中3の子ども ※幼児・低学年は保護者同伴限定	60名
	ヤマコー自主企画 生涯学習講座 (健康体操、クラフト等)	幅広い年齢層に体験的な活動の場を広げるため、ものづくりや健康づくりなどの生涯学習講座を提供する。	講座によって実施期間や実施内容が異なります。ホームページで紹介しますので、ご確認ください。		一般成人	一講座 10名程度

【創立50周年記念式典】 11月16日(土)

(5)山形県金峰少年自然の家 海浜自然の家

(金峰) 〒997-0369 鶴岡市高坂字杉ヶ沢 54-1 TEL 0235-24-2400 FAX 0235-25-5900
(海浜) 〒999-8531 飽海郡遊佐町菅里字菅野 299 TEL 0234-77-2166 FAX 0234-77-3725

1 基本テーマ

「緑と星と海を求めて」～『本物』『仲間』『自分』を見つめよう～

2 教育目標

自然体験や集団生活体験を通して、感性を豊かにし、社会力を身につけ、自立への意欲を高めることにより、心豊かにたくましく生きる力を育てる。

《子どもたちの具体的な姿》

- 『**本物**』（自然・文化など）の価値を受け入れる「**感性**」 → 感じる…「すごい！」
- 『**仲間**』とともに生活をつくる「**社会力**」 → 支え合う…「ありがとう！」
- 『**自分**』づくりにつながる「**自立**」への意欲 → やってみる…「ぼく、やる！」

3 運営方針

心豊かにたくましく生きる力の育成をめざし、本所の特色である宿泊施設と立地環境と人材を最大限に活かした価値ある体験を通して、子どもたちの感動と感謝と意欲にあふれる姿の見える施設運営に努める。

4 運営の重点

(1) 自然の家の特性を生かし、利用目的の達成に向けた支援と指導者講習会の充実【受入事業】

- ①**利用団体の思いに寄り添ったプログラム相談**を通して、利用目的の明確化を促し、利用者の実態に即したプログラムづくりと体験活動を支援する。
- ②**各種研修会を充実**させ、自主活動の質の向上、達成感につなぐ。
- ③庄内の地域素材を活用した**魅力あるプログラム開発**を推進する。

(2) 今日的課題と利用者ニーズに応じた先導的な事業の実施【主催・企画事業】

- ①社会性・課題解決力・たくましさの育成、庄内の自然・文化の理解、指導者養成、学校・幼保の支援、関係機関との連携などの**今日的課題とニーズに対応した事業を企画・実施**する。
- ②**低年齢児やリピーター層の自然体験**への関心、身近で気軽な自然体験への関心、自然の家ならではの活動への期待感を取り込んだ活動プログラムを企画・実施する。
- ③**発達段階に応じた体験機会**を繰り返し提供し、学校・幼保の子ども達の学習支援を充実させる。
- ④生涯学習の視点に立った、家族や成人向け事業を企画実施し、**幅広い年代のニーズ**に応える。

(3) 客観的で即時的な事業評価とPDCAサイクルを意識した適切な事業改善

- ①利用者アンケート、利用統計、事業反省等を総括分析し、事業の質を高める。
- ②利用申し込みやアンケートに**デジタルツールを効果的に活用**する。

(4) 研修支援や企画実践に関する指導力向上と全職員一体となった誠意ある取り組みの推進

- ①**企画力・指導力向上のため内外の研修に努め**、専門的な知識技能を持って支援に当たる。
- ②常勤職員、非常勤職員、指導員、ボランティアの維持確保と育成に努め、協力体制を充実させ、**スタッフ全員で誠意を持って対応**に当たる。
- ③**ニーズに応じた資料作成**に努めるとともに**情報発信**を工夫する。

(5) 自然体験の魅力やかかわりを通じた学びの重要性を伝え、施設利用につなぐ広報活動の充実

- ①**HPを充実**させるとともに、各種事業の活動をFBやInstagramで発信する。
- ②パンフレット、チラシ、報道機関、SNS等の**情報発信媒体を効果的に活用**し、利用拡大をめざす。

(6) 県民に支持される施設づくり

- ①**利用者の視点に立って施設や環境を整備**し、開かれた利用しやすい施設をめざす。
- ②青少年教育施設の役割を意識した、**環境整備とプログラム開発、適切な活動支援**に努める。
- ③気象や動植物の状況把握に努め、**安心安全な活動**に向け、迅速で正確な情報収集と提供を行う。

令和6年度 企画事業一覧（案）※「わんぱく自然塾～夏の巻～」は県主催事業の位置づけ

事業名	事業のねらい	事業内容	期日	対象	人数
異年齢集団の交流の中で自然に親しむ心やたくましさを育てる事業					
わんぱく自然塾 ～春・夏・ちびっこ・冬の巻～ ※印は秋	オールシーズンキャンプを体験することで、自然の豊かさに感動する感性、仲間との協調性、自立心、忍耐力を養います。 ※キャンプ基礎体験を通して野外活動の楽しさを感じながら、協調性、自立心、忍耐力を養います。	・山キャンプ活動・登山 ・海キャンプ活動・ビバーク ・カヌー、いかだ体験 ・環境を生かした野外活動 等 ・テント泊、野外炊飯等の野外活動の基礎体験※ ・自然散策等の体験活動※	春5/25(土)～26(日) 夏8/5(月)～8/9(金) ちびっこ①9/28(土)～9/29(日) ちびっこ②10/12(土)～13(日) 冬 2/1(土)～2(日)	春:小4～中学生 夏:小5～中学生 ちびっこ: 小1～3年生 冬:小4～中学生	春夏冬各24名 ちびっこ各20名
海浜ジオキャンプ	鳥海山・飛島ジオパークでの体験や学習を通して、地元の自然に興味・関心を持ち、魅力を発見する場を提供します。	・鳥海山や飛島のガイドツアー ・牛渡川カヌーツーリング	7/31(水)～8/2(金)	小5～中学生	24名
指導者と大人のための研修事業					
金峰 指導者講習会	金峰少年自然の家での体験活動を効果的に展開し、活動のねらいを達成するために引率指導者の研修会を実施します。	・指導力向上のための研修プログラム相談会 4/19、4/26、5/10、5/17、5/23、5/31、6/14、7/5 テント・野外炊飯研修会 5/28、6/15 由良海活動研修会 5/18、5/21 いかだ研修会 5/18、5/21 野外ゲーム研修会 5/14、5/28、6/8、6/15 金峯山登山研修会 5/12		利用団体引率指導者 フォローアップ研修対象者 ステージアップ研修対象者等	
海浜 指導者講習会	海浜自然の家での体験活動を効果的に展開し、活動のねらいを達成するために引率指導者の研修会を実施します。	・指導力向上のための研修プログラム相談会 4/19、5/9、5/14、5/24、6/7、6/21、7/5、7/26 テント・野外炊飯研修会 5/30、6/14 カヌー研修会 5/10、5/17、6/1、6/22、6/29、7/20、8/23 野外ゲーム研修会 5/16、6/14			
ボランティアスタッフ講習会 ①②	自然の家におけるボランティア活動の内容について理解するとともに、キャンプやフェスタ等において、リーダー(利用団体引率指導者)として活動できるようにキャンプや野外活動の基礎技能の習得を図る。	・ボランティアスタッフ活動の内容や意義についての説明(先輩スタッフによる講話) ・野外活動の実技研修 ・心肺蘇生法の実技研修 ・ボランティア活動 ・参加者同士の交流を深める活動	① 4/27(土)～28(日) ② 7/6(土)～7(日)	高校生～一般成人	各50名
自然体験活動講習会 ①②	自然の家での体験活動を効果的に安全に展開できるように、キャンプや野外活動の基礎技術を習得すると共に、危機管理意識の高揚やボランティア精神の醸成等を通じて、総合的な人間力の向上を図る。			教員 フォローアップ研修対象者 ステージアップ研修対象者	
野あそびシリーズ 事前研修会	安全で充実した活動にするための指導上のポイントや安全確保上の留意点について、体験活動・現地下見を通して研修します。	・野外活動や食体験の研修 ・危険箇所、危険要素の研修	春 3/21(金) 秋① 9/17(火) ② 10/17(木) 冬① 1/8(水) ② 1/24(金)	利用団体引率指導者	
縦走！鳥海山	自然豊かな鳥海山の登山をを通じて、里山の自然に親しむと共に、参加者の交流を図ります。	・鳥海山登山	9/14(土)	高校生～一般成人	20名
自然・環境への興味を広げ、家族のふれあいを深める事業					
きんぼう春フェスタ	季節や自然のよさを感じる体験を通して、庄内の豊かな自然に親しむ機会と自然の家を身近に感じてもらう機会を提供します。	・自然散策やトレッキング ・食体験、野外ゲーム、クラフト製作 ・自然に親しむゲームや環境について学ぶ活動	4/28(日)	親子・家族 一般成人	100名
かいひん秋フェスタ			10/19(土)		120名
きんぼうクラフトフェスタ			12/7(土)		50名
きんぼう冬フェスタ			1/18(土)		70名
海浜カヌー体験デー ①②	カヌー体験を通して、海や川の自然にふれる機会を提供します。	・カヌー操船体験	① 7/13(土) ② 7/14(日)	小学生～一般成人	各60名
海浜カヌーツーリングデー ①②③④			①8/24(土) ②8/25(日) ③9/28(土) ④9/29(日)		
エンジョイフィッシング！ ①②	釣りを通して庄内の海の楽しさを感じる機会を提供します。	・海釣り体験	① 6/15(土) ② 9/21(土)	小学生～一般成人	各60名
エンジョイ金峯山登山①②	自然豊かな金峯山の登山をを通じて、里山の自然に親しむと共に、参加者の交流を図ります。	・金峯山登山	① 5/11(土) ② 10/26(土)	小学生以上の親子・家族 一般成人	各20名
エンジョイ鳥海山トレッキング	自然豊かな鳥海山麓のトレッキングをを通じて、里山の自然に親しむと共に、参加者の交流を図ります。	・鳥海山トレッキング	5/18(土)	小学生以上の親子・家族 一般成人	20名
わくわくスターウォッチング	月や星を観察することによって天体に対する興味を喚起します。	・天体望遠鏡での月や星の観察、講話	①6/14(金) ②8/9(金) ③8/14(水) ④9/17(火) ⑤10/26(土) ⑥11/22(金)	親子・家族 一般成人	各40名
はじめてのファミリーキャンプ	庄内の豊かな自然に親しむ機会と、野外活動や炊飯活動、テント泊を通して、家族でのふれあいの場を提供します。	・テント泊や野外炊飯等の環境を生かした野外活動の基礎体験	9/7(土)～8(日)	家族	5家族 20名程度
学習支援事業					
野あそびシリーズ	春さがし 秋さがし 雪あそび	金峰周辺の野山での活動を通して、季節の変化や特色に気付く体験の機会を提供します。	・自然散策や野外ゲーム ・焚き火でおやつ・焼き芋 ・ロングヒップスライダー	春さがし:4月～5月 秋さがし:9月～11月 雪あそび:1月～2月	幼児～小学校 低学年
	海浜秋あそび	海浜自然の家やその周辺における活動を通して、秋の深まりを感じる体験を提供します。	・松ぼっくりでの焼き芋 ・湧水見学、磯遊び等 ・箕輪鮭孵化場見学	9月～10月	

※募集人数は変更になる場合があります

山形県飯豊少年自然の家

〒999-0605 西置賜郡飯豊町大字添川字関山 3535-33
TEL 0238-74-2331 FAX 0238-72-2342

1 基本テーマ 野性と冒険 (土と緑と太陽と)

自然の中で生き生きとたくましく活動し、未知の体験に進んで取り組む人間の育成

サブテーマ ～「自律」「協同」「友情」「奉仕」～

- 「自律」 自分の目標をしっかりと立てて、自分で考えて行動できる人
- 「協同」 心を合わせ、助け合ってともに活動(仕事)をできる人
- 「友情」 相手の立場を尊重して、思いやりのある行動ができる人
- 「奉仕」 利害にとらわれず、みんなのために一生懸命働く人

2 教育目標

自然体験や集団宿泊体験などの様々な体験活動を通して「野性味とたくましい冒険心」を培うとともに、社会性や協調性などの「他とかかわる力」の育成に努める。

また、様々な体験活動や学習機会を提供して、自己の充実や啓発、生活向上を支援する。

- (1) 自然に親しみ、自然の優しさや厳しさに触れ、自然を大切に作る心や豊かな感性を育てる。
- (2) 集団体験を通して他とのかかわりを促進し、コミュニケーション力や自律、自尊感情、思いやり、感謝、感動などの豊かな心を培う。
- (3) 様々な体験活動や交流活動に積極的に挑戦することにより 心身を鍛え、主体的・協同的に行動したり問題を解決したりする力と態度を養う。

3 運営方針

- (1) 指定管理者2年目にあたるが、官民融合の観点に立ち、県と指定管理者が互いに連携協力し合い、利用者に信頼され親しまれるよう管理運営を行う。＜笑顔・誠実・探究・対話協働・安心安全＞
- (2) 多様なニーズと生涯学習の観点に立ち、利用者目線で豊かな学びと価値ある事業の企画・運営に努める。＜ニーズ・幅広い年齢層・魅力と満足度＞

4 運営の重点及び具体策

- (1) 主催・企画・自主事業の充実
 - 対象とする年齢に応じた豊かでたくましい心身や主体的・協同的な実践力を育む事業の企画運営
 - 時節やニーズ、SDGsの考えを取り入れた事業や、地域の特性(人的・物的な活用)を生かした魅力ある事業の企画による利用者の拡大
- (2) 受入事業の充実
 - 学校には教育課程と関連付けた企画や各団体のニーズに応じた事業の企画運営
 - 幅広い年齢層や多様なニーズ、今日的な課題に対応できるプログラムの開発・提供により利用者の満足度を高める<自然体験・集団宿泊体験、各種研修、合宿、施設利用、等>
 - 利用者主体につなぐ「活用セミナー」の運営の工夫
- (3) 広報活動の充実
 - 体験活動の意義や魅力、啓発に係る発信、事業募集や施設利用に向けた積極的且つ早期の広報
 - 学校、教育委員会への訪問や報道機関への協力依頼、本所HP、インスタグラム、LINE等による発信
 - 自然の家の活用について一般利用の拡充を図るためのポスター掲示等
- (4) 危機管理対応の徹底
 - 報告・連絡・相談の徹底と組織対応 ○安全・衛生保持に係る施設内外の日常点検と迅速処理
 - 事故防止に係る事前指導、情報提供の徹底 ○食物アレルギーへの適切な対応
 - 熱中症の未然防止対応 ○所バス運行に係る交通規則の遵守 ○個人情報への適切な取扱い
- (5) 人的環境の構築
 - 県と指定管理者との連携協力、情報共有を密にした管理運営 ○利用者への丁寧かつ誠意ある対応
 - ボランティアスタッフとの信頼関係の構築と拡充 ○地域の人材発掘
- (6) 改善の推進
 - 事業ごとの企画・運営の振り返りと利用者やボランティアスタッフの声を反映した所運営の工夫
 - 課題の共有と即時対応につなぐ県と指定管理者の協議する場の設定
 - 総括と次年度の方向付けを行う評価や運営懇談会の実施 ○研修の充実 ○働き方改革の意識づけ

令和6年度 山形県飯豊少年自然の家 事業予定一覧

区分	事業名	ねらい	主な内容	開催期日・期間	参加対象	募集人数
家族のふれあい事業	自然大好き！いいでクラブ (全2回)	季節に応じた体験活動を通して、家族や仲間との関わりを深め、豊かな感性を育む。	自然体験活動 クラフト活動 調理・炊飯活動	① 7/7(日) ② 12/14(土)	幼児 小学生 中学生 保護者	各回 50名 程度
	いいでファミリーキャンプ (全2回)	野外宿泊体験や炊飯活動を通して、自然の中で家族そろって活動する楽しさを味わうとともに、家族のふれあいを深める。	野外宿泊体験 野外炊飯活動	① 6/1(土)～2(日) ② 9/28(土)～29(日)	幼児 小学生 中学生 保護者	10家族 程度
	春のオープンデー	季節に合わせた体験活動や自然物などを活用した体験屋台での活動を通して、家族や仲間とのかかわりを深め、豊かな感性を育む。	体験屋台活動	5/12(日)	どなたでも	200名 程度
	自然楽校でお祭りだ！			10/6(日)		200名 程度
スノーランドフェスティバル	1/18(土)			80名 程度		
自然体験事業	いいでワイルド&アドベンチャー ～春キャンプ～	季節に応じた自然体験活動やテント生活などの宿泊体験活動を通して、異年齢の仲間との関わりを深め、豊かな感性とたくましく生きる力を育てる。	自然体験活動 野外宿泊体験 調理・炊飯活動	5/25(土)～5/26(日)	小学3年～ 中学3年 ※夏キャンプのみ 小学4年以上	30名
	いいでワイルド&アドベンチャー ～夏キャンプ～			7/30(火)～8/4(日)		25名
	いいでワイルド&アドベンチャー ～秋キャンプ～			10/26(土)～27(日)		30名
	いいでワイルド&アドベンチャー ～冬の冒険隊～			2/1(土)～2(日)		30名
	3・4年生のための ～いいでプレキャンプ～	体験活動や同年齢の仲間との交流を通して、学校行事で行われる宿泊体験学習に向けて意欲と関心を高める。	自然体験活動 調理・炊飯活動 館内宿泊体験	3/8(土)～9(日)	小学3・4年	36名
感性育成推進事業	めざみの春さがし	春の野山で遊んだり動植物の様子を観察したりして、自然への興味・関心を高め、豊かな感性を育む。	自然観察 Fアスレチック	4月16日(火) ～5月24日(金)	幼児教育施設 小学校などの 各種団体	1日 2団体 程度
	夢いっぱいどんぐり広場 もくもくやきいも体験	秋の野山で木の実拾いをしたりやきいもをしたりして、秋の実りを楽しむとともに、自然への興味・関心を高め、豊かな感性を育む。	木の実拾い 自然観察 やきいも体験 クラフト活動	9月3日(火) ～11月22日(金)		
	うきうき クリスマス&お正月	クリスマスやお正月の行事にちなんだクラフト活動や昔遊び、もちつき体験などを通して、豊かな感性を育む。	もちつき体験 クラフト活動	11月26日(火) ～12月27日(金)		
	わくわくスノーランド	冬の自然体験活動を通して雪国ならではの遊びやスポーツを体験するとともに、自然への興味関心を高め豊かな感性を育む。	チューブすべり スノーハイキング	1月20日(月) ～2月21日(金)		
	アツアツやきいもパーティー (全2回)	やきいも体験を通して秋の自然に親しみ、親子のふれあいを深める。	やきいも体験	① 11/9(土) ② 11/10(日)	幼児 小学生 中学生 保護者	各回 40名 程度
	スノーランドファイナル (全2回)	チューブすべり体験を通して、冬の自然に親しみ、親子のふれあいを深める。	チューブすべり	① 2/22(土) ② 2/23(日)		各回 50名 程度
指導者・指導員の 研修・事業	高校生ボランティア講習会	ボランティア活動についての基礎や、子どもへの関わり方についての学習を通して、ボランティアに対する知識・技能の向上を図る。	講話、研修	6/15(土)	高校生	
	活用セミナー(全4回)	集団宿泊体験活動や野外活動などの実施方法について研修し、当所の利用方法について理解を深めていただく。	講話、実習 利用団体調整会	① 4/17(水) ② 5/15(水) ③ 6/23(日) ④ 8/20(火)	施設利用予定 団体の指導者	希望者 全員
	フライデーセミナー	事前に活動場所を下見したり活動内容について相談を受けたりして、当所の利用方法について理解を深めていただく。	下見、事前相談	実施日や時間については ご相談ください		
施設特性事業	いきいき体験塾	施設の特性を活かして多様なニーズに対応していくとともに、青少年に限らず幅広い年齢層の利用促進を図る。	各団体の要望 に応じて対応	通 年	中高年対象 の各種団体 (日帰り)	各団体による
	体験学習サポート事業	施設の特性を活かした学習活動や近隣施設などへの広域学習を提案したり「出前講座」を開催したりして、活動を支援する。	各団体の要望 に応じて対応	通 年	各種団体	各団体による

※内容によって、参加対象や募集人数を変更する場合があります。

(7) 令和6年度神室少年自然の家運営計画

1 基本テーマ 「自然と生活と科学」 ～豊かな体験 高まる感性～

2 教育目標

自然と生活と科学に関する豊かな体験活動を通じて感性を高め、いのち（自然）をつなぎ、学び（科学）を通して地域（生活）とつながる青少年の育成を図る。

3 運営方針

- (1) 自然体験活動を通して、自然の美しさや神秘・厳しさに触れさせ、いのちの大切さを基調にした自然への感性を養うとともに、自他の生命と生き方を尊重する豊かな心と健やかな体を育てる。
- (2) 集団での生活を通して、基本的な生活習慣をつくる。また、自然や人との多様なかかわりの中で、高い意欲や関心・思いやりの心・協調する心など豊かな社会力を養う。
- (3) 先人の知恵や技に学び、質の高い活動を通して、主体的に考え、判断できる能力を養い、その体験を学びや生活実践にまで高めることにより、自立した人間づくりを目指す。

4 運営の重点

(1) 社会教育施設としての運営の基本を大切にする。

○第6次山形県教育振興計画のキーワードである「いのち」「まなび」「かかわり」を基本にして、生涯学習の視点に立ち、青少年の社会力と家庭や地域の教育力の育成に寄与する。

(2) 今日的課題と利用者のニーズに応じた事業・受け入れ事業の実施をめざす。

- 今日的課題(自然・社会体験不足、他と関わる力の低下、家庭教育力の低下等)を踏まえて、教育的価値づけを明確にした事業や受け入れ事業を企画運営する。
- 利用団体のねらいを基本にして、神室の特長(豊かな自然環境、人材等)を存分に生かした豊富な直接体験の活動支援に努める。

(3) 利用者の視点に立ち、安全で安心な施設管理運営に万全を期す。

- 常に危機管理意識を持ち、安全点検と衛生管理を徹底し、研修環境の整備・充実を図る。
- 施設・設備の整備管理と遊具等の開発や館内写真等の掲示物、HPの効果的な活用により積極的に魅力を発信し、さらなる利用促進をめざす。

(4) 関係機関・団体との連携の拡充と広報活動の充実に努める。

○「山形から体験の風をおこそう運動」や広報誌「神室のいずみ」、HP等により情報を積極的に発信し利用拡大を図る。

(5) 職員の資質向上をめざす。

- 個々の日々の研鑽とOJT機能を十分に機能させ、企画・運営、指導力向上をめざす。
- 神室 ONE TEAM 目標達成に向けて所員全員が共通認識を持ち官民一体となって業務遂行に努める。

令和6年度「山形県神室少年自然の家」 事業一覧

<神室少年自然の家 主催・企画事業>

区分	事業名	事業のねらい	事業内容	募集期間(予定)	期日	対象
子育て支援事業	めんごキャンプ① ～入門編～ めんごキャンプ② ～宿泊編～	集団活動や自然体験活動を通じて、幼児が自立する力や仲間と関わる力を育む。また、親が自然体験や子育てを再考する機会とする。	・自然散策・野外活動 ・野外炊飯・宿泊体験	4月28日(日)～12日(日) ※入門編・宿泊編を一括募集	6月2日(日) 9月28日(土)～29日(日)	幼・小低学年とその保護者
	わんぱく探検隊 ～夏・秋・冬～	集団生活や季節に応じた様々な野外活動に取り組むことで、感性を高め、自主性や協調性を育む。	・川遊び、野外炊飯等 ・創作活動等	5月30日(木)～6月8日(土) ※夏・秋・冬を一括募集 ※随時、キャンセル待ち対応	6月29日(土)～30日(日) 9月7日(土)～8日(日) 1月18日(土)～19日(日)	小3・4年生
	アドバンチャーキャンプ	大自然の中で5泊6日の野外体験を行い、心豊かにたくましく生きる力を育てる。	・野外生活・川遊び ・登山等	6月11日(火)～28日(金)	7月30日(火)～ 8月4日(日)	小5～中学生
	親子ふれあいキャンプ ～春～ 親子ふれあいキャンプ ～冬～	親子での自然体験を通じて、自然の素晴らしさを体験したり、親子の絆を深めたりする。	・野外活動 ・キャンプ体験等 ・雪中活動、雪上レク ・キャンプ体験等	4月20日(土)～5月4日(土) 1月11日(土)～25日(土)	5月25日(土)～26日(日) 2月15日(土)～16日(日)	幼・小学生とその保護者 幼・小学生とその保護者
親子ふれあい事業	親子でかっぱだれ ～塩根川・小又川～	親子での川遊びを通じ、安全意識を高め、自然の素晴らしさや体験の楽しさを体感する。	・川遊び・魚捕まえ	6月30日(日)～7月10日(水)	7月20日(土) 午前の部・午後の部	幼・小中学生とその保護者
	伝承文化ふれあい体験	地区老人クラブとともに、年末年始の伝統文化活動を体験する。	・正月飾り作り ・正月伝承文化体験	11月8日(金)～18日(月)	12月8日(日)	幼・小中学生とその保護者
生涯学習事業	ふれあいトレッキング	トレッキング体験を通じて、自然の素晴らしさを体感する。	・軽登山・自然観察	5月23日(木)～6月1日(土)	6月15日(土)	小・中と保護者一般
	最上の自然探訪		・登山・自然観察	9月18日(水)～28日(土)	10月12日(土)	小・中と保護者一般
一般開放事業	神室オーブナー	自然の家の施設を広く開放し、四季に応じた様々な活動を通して、人とのかわりや自然体験活動の動機づけをする。	・野外散策・山菜採り ・各種体験等	4月10日(水)～26日(金)	5月12日(日)	幼・小・中・高保護者・一般
	神室フェスティバル		・野外散策・各種体験	9月27日(金)～10月5日(土)	10月26日(土)	幼・小・中・高保護者・一般
	ウインターフェスティバル		・スノーシューハイク ・雪遊び・各種体験	1月7日(火)～24日(金)	2月2日(日)	幼・小・中・高保護者・一般
指導者養成事業等	ガイドセミナーⅠ～Ⅳ (利用団体説明会 兼 プログラム調整会議)		・施設利用の仕方 ・活動プログラム検討	I 4/9(火) II 5/1(水) III 5/29(水) IV 8/9(金)	I 4/17(水) II 5/15(水) III 6/12(水) IV 8/28(水)	利用団体の 引率指導者
	プログラム体験会 ①～⑧	施設や設備の利用の仕方やプログラム体験によって活動ポイントの理解を図る。	①野外炊飯 ②スコアオリエンテーリング他 ③三滝ハイキング ④テント・ピバーク ⑤火起し・焼き板 ⑥川遊びA・B ⑦川遊びC ⑧野外炊飯	① 4/9(火) ② 4/9(火) ③ 5/1(水) ④ 5/7(火) ⑤ 5/14(火) ⑥ 5/29(水) ⑦ 5/29(水) ⑧ 8/9(金)	① 4/17(水) ② 4/23(火) ③ 5/15(水) ④ 5/21(火) ⑤ 5/28(火) ⑥ 6/12(水) ⑦ 6/12(水) ⑧ 8/28(水)	
	ボランティア研修会 「神室塾」	自然体験活動の基礎技術の向上を図り、施設ボランティアとしての資質向上を図る。	・救急法実習 ・避難訓練実習 ・トレッキング実習	～4月20日(土) ～9月28日(土)	5月12日(日) 10月12日(土)	指導員 ボランティア

<株式会社ひかり 自主事業>

1	神室土曜開放デー	子どもの居場所づくりの一環として土曜開放事業を行い、自然体験・集団活動を通じて自主性や協調性を育む。	・春の森散策	4月10日(水)～20日(土)	4月27日(土)	小3～一般
			・水神沢ハイキング	10月19日(土)～31日(木)	11月9日(土)	小3～一般
			・スノーチューブ滑り	12月21日(土)～28日(土)	1月11日(土)	小1～一般
2	炭焼き体験	敷地内の環境保全のため間伐材有効活用と昔から山村に伝わる伝統的な技術に触れる。	・炭焼き活動全般	2月1日(土)～15日(土)	3月1日(土)・2日(日) 炭出し体験・立込み体験	中1～一般

(8) 山形県生涯学習センター

〒990-0041 山形市緑町一丁目 2 番 36 号「遊学館」内
TEL 023-625-6411 FAX 023-625-6415
〒990-0041 山形市緑町一丁目 4 番 28 号「洗心庵」
TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

1 設置目的 県民の生涯にわたる自主的な学習活動を総合的に支援、助長し、県民一人ひとりの豊かな生活の創造と地域社会の振興並びに地域の活性化を担う人材の育成を図る。

2 運営主体 公益財団法人 山形県生涯学習文化財団

3 基本的機能と役割

本県の生涯学習振興の中核施設として、県民及び県内外の生涯学習関連施設とのネットワークの形成を図る基本的機能を持つとともに、次のような役割を担う。

- (1) 講座・研修等各種生涯学習事業の開発及び実施
- (2) 生涯学習振興に関する調査研究
- (3) 学習情報の整備、提供及び相談
- (4) 学習者相互の交流・研鑽・発表に係る機会及び場の提供並びに支援

4 運営の基本方針

- (1) 関係機関と連携し、県民に親しまれる生涯学習センターの運営を図る。
- (2) 地域学を推進するとともに、県民が主体的に学ぶ機会を提供する。
- (3) 学習情報の整備・充実を図り県民に提供するとともに、調査研究を行う。
- (4) 主体的な学習活動への支援を行うとともに、地域の指導者等人材の育成を図る。

5 事業の考え方

(1) 生涯学習部門

「山形県生涯学習振興計画」に沿って、学習情報提供の充実を図るとともに、人材育成として市町村生涯学習・社会教育関係職員研修や、地域づくりリーダー育成のための研修を充実させる。また、山形県を多様な切り口から学習・研究する「山形学」を推進するほか、地域活性化や生涯学習活動への助成を行い効果的な支援を進める。

(2) 指定管理部門

生涯学習センター及び男女共同参画センターにおいては、図書館をはじめ、遊学館入居施設等との連携を密に取り、遊学館の円滑な運営に努めるとともに、これらの機関との連携や新たに整備された研修室の活用により利用者数の回復に取り組む。また、引き続き、利用しやすい環境づくりと県民サービスの向上、施設利用のPRを強化し、利用促進を図っていく。

6 事業体系

【県民の生涯にわたる学習活動の推進に関する事業】

